

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年3月28日

【事業年度】 第103期(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

【会社名】 TOYO TIRE株式会社
(旧会社名 東洋ゴム工業株式会社)

【英訳名】 Toyo Tire Corporation
(旧英訳名 Toyo Tire & Rubber Co., Ltd.)
(注) 2018年3月29日開催の第102回定時株主総会の決議により、
2019年1月1日から会社名を上記のとおり変更いたしました。

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 清水 隆 史

【本店の所在の場所】 兵庫県伊丹市藤ノ木2丁目2番13号

【電話番号】 (072)789-9100 (大代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 執行役員 コーポレート統括部門管掌 笹 森 建 彦

【最寄りの連絡場所】 兵庫県伊丹市藤ノ木2丁目2番13号

【電話番号】 (072)789-9100 (大代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 執行役員 コーポレート統括部門管掌 笹 森 建 彦

【縦覧に供する場所】 TOYO TIRE株式会社 東京支店
(東京都千代田区岩本町3丁目1番2号)
TOYO TIRE株式会社 名古屋事務所
(愛知県みよし市打越町生賀山3)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 第103期有価証券報告書より、日付の表示を和暦から西暦に変更しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

| 回次 | | 第99期 | 第100期 | 第101期 | 第102期 | 第103期 |
|---|-------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 決算年月 | | 2014年12月 | 2015年12月 | 2016年12月 | 2017年12月 | 2018年12月 |
| 売上高 | (百万円) | 393,782 | 407,789 | 381,635 | 404,999 | 393,220 |
| 経常利益 | (百万円) | 46,543 | 56,814 | 44,102 | 40,167 | 38,379 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益又は 親会社株主に帰属する 当期純損失() | (百万円) | 31,240 | 1,674 | 12,260 | 15,476 | 10,553 |
| 包括利益 | (百万円) | 44,677 | 2,162 | 24,039 | 24,226 | 487 |
| 純資産額 | (百万円) | 184,638 | 175,364 | 145,621 | 163,815 | 157,251 |
| 総資産額 | (百万円) | 481,966 | 522,937 | 491,088 | 473,876 | 469,381 |
| 1株当たり純資産額 | (円) | 1,421.84 | 1,353.19 | 1,114.82 | 1,252.66 | 1,202.75 |
| 1株当たり 当期純利益金額又は 当期純損失金額() | (円) | 245.97 | 13.19 | 96.54 | 121.87 | 83.11 |
| 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 | (円) | | | | | |
| 自己資本比率 | (%) | 37.47 | 32.86 | 28.83 | 33.57 | 32.54 |
| 自己資本利益率 | (%) | 19.63 | 0.95 | 7.82 | 10.30 | 6.77 |
| 株価収益率 | (倍) | 9.70 | 182.31 | | 19.10 | 16.55 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー | (百万円) | 37,789 | 41,305 | 38,865 | 13,430 | 19,063 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | (百万円) | 30,122 | 46,009 | 13,785 | 10,633 | 28,428 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | (百万円) | 12,680 | 19,051 | 31,317 | 13,513 | 12,829 |
| 現金及び現金同等物 の期末残高 | (百万円) | 32,395 | 44,431 | 37,639 | 27,887 | 30,467 |
| 従業員数 | (名) | 10,849 (1,268) | 11,333 (1,307) | 11,684 (1,261) | 11,759 (1,144) | 11,449 (1,355) |

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員数であります。

4 2014年7月1日付で、普通株式につき2株を1株とする株式併合を行ったため、第99期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

5 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2013年9月13日)等を適用し、第101期より、「当期純利益又は当期純損失()」を「親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失()」としております。

(2) 提出会社の経営指標等

| 回次 | 第99期 | 第100期 | 第101期 | 第102期 | 第103期 |
|--------------------------------------|----------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 決算年月 | 2014年12月 | 2015年12月 | 2016年12月 | 2017年12月 | 2018年12月 |
| 売上高 (百万円) | 233,361 | 239,674 | 207,420 | 218,678 | 225,696 |
| 経常利益 (百万円) | 42,197 | 50,695 | 29,033 | 29,660 | 27,283 |
| 当期純利益又は 当期純損失() (百万円) | 31,586 | 7,840 | 20,366 | 9,680 | 1,956 |
| 資本金 (百万円) | 30,484 | 30,484 | 30,484 | 30,484 | 30,484 |
| 発行済株式総数 (千株) | 127,179 | 127,179 | 127,179 | 127,179 | 127,179 |
| 純資産額 (百万円) | 139,910 | 127,521 | 95,580 | 104,738 | 94,783 |
| 総資産額 (百万円) | 287,215 | 310,275 | 288,895 | 291,730 | 290,823 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 1,101.64 | 1,004.13 | 752.62 | 824.76 | 746.38 |
| 1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円) | 45.00 () | 45.00 (20.00) | 45.00 (20.00) | 45.00 (20.00) | 45.00 (20.00) |
| 1株当たり 当期純利益金額又は 当期純損失金額() (円) | 248.70 | 61.74 | 160.37 | 76.23 | 15.41 |
| 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円) | | | | | |
| 自己資本比率 (%) | 48.71 | 41.10 | 33.08 | 35.90 | 32.59 |
| 自己資本利益率 (%) | 25.46 | 5.84 | 18.26 | 9.67 | 1.96 |
| 株価収益率 (倍) | 9.59 | | | 30.54 | 89.24 |
| 配当性向 (%) | 18.09 | | | 59.03 | 292.05 |
| 従業員数 (名) | 3,056 (755) | 3,247 (753) | 3,327 (701) | 3,462 (651) | 3,532 (571) |

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員数であります。

4 2014年7月1日付で、普通株式につき2株を1株とする株式併合を行ったため、第99期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

2 【沿革】

| 年月 | 沿革 |
|----------|--|
| 1945年8月 | 東洋紡績(株)(現、東洋紡(株))がゴム工業発展のために設立し、強化育成した東洋ゴム化工(株)、及び(株)平野護謨製造所が合併、「東洋ゴム工業(株)」を設立 |
| 1949年5月 | 株式を大阪証券取引所に上場 |
| 1953年7月 | 自動車タイヤ生産のため、伊丹工場(兵庫県伊丹市)を開設 |
| 1955年5月 | 株式を東京証券取引所に上場 |
| 1961年9月 | 株式を名古屋証券取引所に上場(2011年6月、上場廃止) |
| 1961年12月 | 中央研究所(大阪府茨木市)を開設(2013年12月、兵庫県川西市に移転) |
| 1964年9月 | ポリウレタンフォームの生産・加工のため、兵庫工場(兵庫県加古郡)を開設 |
| 1966年7月 | 米国での自動車タイヤ販売を促進するため、業界に先駆け、「Toyo Tire (U.S.A.) Corp.(現、Toyo Tire U.S.A. Corp.)」を設立 |
| 1971年4月 | 公害防止機器、工業用ゴム製品の生産のため、明石工場(兵庫県加古郡)を開設 |
| 1974年2月 | オーストラリア・バキュラグ社(現、Toyo Tyre and Rubber Australia Ltd.)に資本参加 |
| 1975年9月 | 三菱商事(株)と合併で欧州に自動車タイヤの販売会社「Toyo Reifen GmbH(現、Toyo Tire Europe GmbH)」を設立 |
| 1979年2月 | 日東タイヤ(株)と生産、技術、販売、管理等業務全般にわたり提携 |
| 1986年4月 | 自動車部品技術センター(愛知県みよし市)を開設 |
| 1987年3月 | 自動車用防振ゴムで正新橡膠工業(中華民国)と合併会社「洋新工業」を設立 |
| 1996年10月 | 菱東タイヤ(株)を吸収合併 |
| 1998年12月 | 伊丹事業所生産部門を桑名工場へ統合(伊丹工場を閉鎖) |
| 1999年9月 | 自動車用防振ゴム製品の分野で鬼怒川ゴム工業(株)との間で業務提携合意(2017年7月、業務提携解消) |
| 2000年4月 | 自動車部品東日本技術センター(千葉市稲毛区)を開設(2011年9月、自動車部品技術センターに移転・統合) |
| 2001年2月 | 米国・ケンタッキー州に自動車用防振ゴム製品の生産・販売会社「Toyo Automotive Parts (USA), Inc.」を設立 |
| 2001年11月 | 「TOYO TECHNICAL CENTER(現、タイヤ技術センター)」「(兵庫県伊丹市)を開設 |
| 2003年1月 | 三菱商事(株)と合併で自動車タイヤの販売会社「東洋輪胎(上海)貿易有限公司(現、通伊欧輪胎(上海)貿易有限公司)」を中国・上海市に設立 |
| 2004年6月 | 米国・ジョージア州に自動車タイヤの生産子会社「Toyo Tire North America, Inc.(現、Toyo Tire North America Manufacturing Inc.)」を設立 |
| 2004年9月 | 中国・広東省に自動車用防振ゴム製品の生産子会社「東洋橡塑(広州)有限公司」を設立 |
| 2005年7月 | イギリス・ノーザンプトン州に自動車タイヤの販売会社「Toyo Tyre (UK) Ltd.」を設立 オランダ・ローゼンダールに自動車タイヤの販売会社「Toyo Tire Benelux B.V.」を設立 |
| 2006年4月 | トーヨーソフラン(株)と中部ソフラン(株)を統合し、社名を「東洋ソフラン(株)」に変更 |
| 2006年11月 | イタリア・コルサルベッティの自動車タイヤ販売会社(現、Toyo Tire Italia S.p.A.)を子会社化 |
| 2007年4月 | 国内の自動車タイヤ販売会社10社を統合し、「(株)トーヨータイヤジャパン」を設立 国内の化工品販売会社2社を統合し、「東洋ゴム化工品販売(株)(現、東洋ゴム化工品(株))」を設立 |
| 2008年5月 | (株)ブリヂストンと業務・資本提携基本合意 |
| 2008年10月 | ロシア・モスクワに自動車タイヤの販売会社「TOYO TIRE RUS LLC」を設立 |
| 2010年4月 | 中国・江蘇省に自動車タイヤの生産子会社「東洋輪胎張家港有限公司(現、通伊欧輪胎張家港有限公司)」を設立 |
| 2010年12月 | マレーシア・クアラルンプールの自動車タイヤ製造・販売会社「Silverstone Berhad」を子会社化 |
| 2011年4月 | マレーシア・ペラ州に自動車タイヤの生産子会社「Toyo Tyre Manufacturing (Malaysia) Sdn Bhd(現、Toyo Tyre Malaysia Sdn Bhd)」を設立 |
| 2011年6月 | 中国・山東省の自動車タイヤ製造・販売会社を子会社化し、社名を「東洋輪胎(諸城)有限公司(現、通伊欧輪胎(諸城)有限公司)」に変更 |
| 2011年12月 | タイ・アユタヤ県に自動車用防振ゴムの販売会社「TOYO RUBBER CHEMICAL PRODUCTS (THAILAND) LIMITED」を設立 |
| 2013年4月 | タイ・バンコクに自動車タイヤの販売会社「Toyo Tire (Thailand) Co.,LTD.」を設立 |
| 2013年10月 | メキシコ・グアナファト州に自動車タイヤ及び自動車用防振ゴムの販売会社「TOYO AUTOMOTIVE PARTS DE MEXICO,S.A.DE C.V.」を設立 |
| 2013年12月 | 研究開発センター(大阪府茨木市)を兵庫県川西市に移設し、名称を「東洋ゴム基盤技術センター」に変更 |
| 2014年5月 | ドイツ・ヴェリッヒに自動車タイヤの販売会社「Toyo Tire Deutschland GmbH」を設立 |
| 2017年5月 | 本社を大阪市西区から兵庫県伊丹市に移転 |
| 2017年12月 | 化工品事業(建築用免震ゴム事業を除く)・硬質ウレタン事業を譲渡 |
| 2018年11月 | 三菱商事(株)と資本業務提携を締結 |
| 2018年12月 | 軟質ウレタン事業を譲渡 |
| 2019年1月 | TOYO TIRE(株)に社名変更 |

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社42社及び関連会社12社で構成され、タイヤ事業（タイヤの製造販売）及び自動車部品事業（自動車用部品の製造販売）を主として行っており、更に各事業に関連する設備並びに金型の供給・保守、資金調達・運用及びその他のサービス等の事業活動を展開しております。

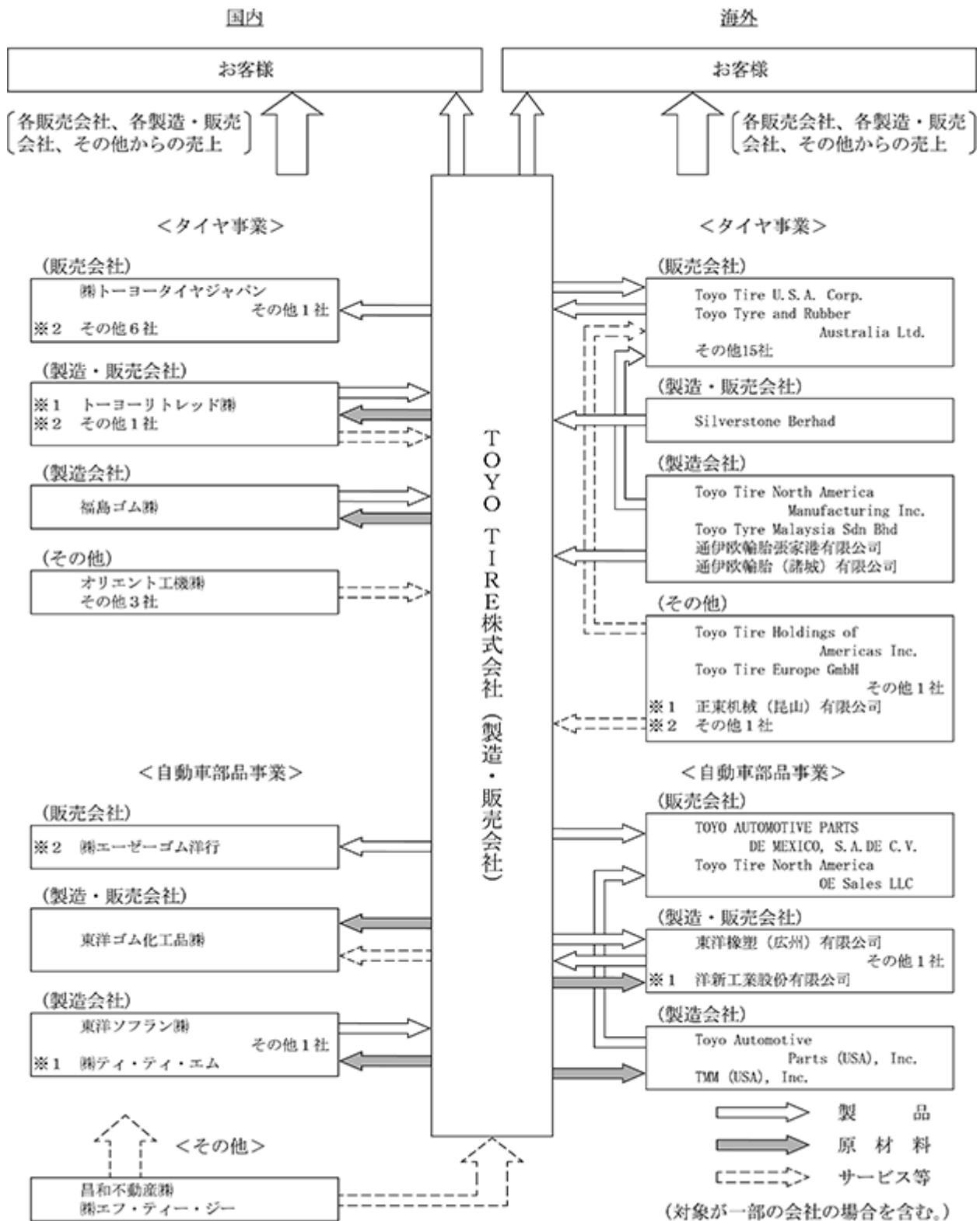
当社グループが営んでいる主な事業内容とその事業に係わる当社グループの位置付けは次のとおりであります。なお、これらの区分内容とセグメント情報における事業区分とは同一であります。

| 事業区分 | 主な関係会社 | |
|--|--------|--|
| <タイヤ事業> タイヤ事業においては、各種タイヤ（乗用車用、トラック・バス用、建設機械用、産業車両用）、タイヤ用チューブ、フラップ、キャメルバック、アルミホイール、その他関連製品を製造及び販売しております。 | 国内 | (販売会社) (株)トーヨータイヤジャパン (製造・販売会社) トーヨーリトレッド(株) (製造会社) 福島ゴム(株) |
| | 海外 | (販売会社) Toyo Tire U.S.A. Corp. Toyo Tyre and Rubber Australia Ltd. Toyo Tire Canada Inc. Nitto Tire U.S.A. Inc. (製造・販売会社) Silverstone Berhad (製造会社) Toyo Tire North America Manufacturing Inc. Toyo Tyre Malaysia Sdn Bhd 通伊欧輪胎張家港有限公司 (その他) Toyo Tire Holdings of Americas Inc. Toyo Tire Europe GmbH |
| <自動車部品事業> 自動車部品事業においては、自動車用部品（自動車用防振ゴム等）を製造及び販売しております。 | 国内 | (製造・販売会社) 東洋ゴム化工品(株) (製造会社) 東洋ソフラン(株) |
| | 海外 | (販売会社) Toyo Tire North America OE Sales LLC (製造・販売会社) 東洋橡塑(広州)有限公司 (製造会社) Toyo Automotive Parts (USA), Inc. |
| <その他> その他においては、国内関係会社に対する融資及び債権の買取、不動産業等を行っております。 | 国内 | 昌和不動産(株) (株)エフ・ティー・ジー |

(注) 前連結会計年度末において、化工品事業（建築用免震ゴム事業を除く）及び硬質ウレタン事業を譲渡したことに伴い、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を「ダイバーテック事業」から「自動車部品事業」へ変更しております。

以上を事業系統図により示すと次のとおりであります。

(事業の系統図)



(注) 1 無印 連結子会社

1 関連会社で持分法適用会社

2 非連結子会社又は関連会社で持分法非適用会社

2 TOYO AUTOMOTIVE PARTS DE MEXICO, S.A. DE C.V. は、タイヤの販売及び自動車部品の販売を行っております。

3 Toyo Tire North America OE Sales LLCは、タイヤの販売及び自動車部品の販売を行っております。

4 【関係会社の状況】

| 名称 | 住所 | 資本金 又は 出資金 (百万円) | 主要な事業 の内容 | 議決権の 所有割合 (%) | 関係内容 | | | |
|---|------------------------------------|---------------------------|----------------------|---------------------|------------|------|-------------------|---------------------|
| | | | | | 役員の 兼任等 | 資金貸付 | 営業上の取引 | 設備の賃貸 |
| (連結子会社) 福島ゴム㈱ | 福島県 福島市 | 250 | タイヤ事業 | 100 | あり | | 原材料の供給 同社製品の仕入 | 生産設備 |
| 東洋ソフラン㈱ | 愛知県 みよし市 | 450 | 自動車 部品事業 | 100 | あり | | 〃 | |
| 綾部トーヨーゴム㈱ | 京都府 綾部市 | 200 | 〃 | 100 | あり | | 〃 | |
| トーヨータイヤ物流㈱ | 神戸市西区 | 360 | タイヤ事業 | 100 | あり | | 当社製品の 保管・運送 | 社屋一部 |
| (株)トーヨータイヤジャパン | 東京都 千代田区 | 440 | 〃 | 100 | あり | | 当社製品の販売 | 営業所一部 土地・建物 |
| ニットージャパン㈱ | 東京都 千代田区 | 20 | 〃 | 100 | あり | | 〃 | |
| 東洋ゴム化工品㈱ | 東京都 新宿区 | 225 | 自動車 部品事業 | 100 | あり | | 原材料の供給 | 社屋一部 土地・建物 設備 |
| 昌和不動産㈱ | 兵庫県 伊丹市 | 100 | その他 | 100 | あり | | | 社屋一部 |
| オリエント工機㈱ | 兵庫県 伊丹市 | 80 | タイヤ事業 | 100 | あり | | 当社生産設備の 製造 | 社屋一部 土地・建物 |
| (株)エフ・ティー・ジー | 兵庫県 伊丹市 | 80 | その他 | 100 | あり | あり | | |
| 仙台サービス㈱ | 宮城県 岩沼市 | 10 | タイヤ事業 | 100 | あり | | 当社製造工程の 付帯業務 | 社屋一部 土地・建物 |
| 桑名サービス㈱ | 三重県 員弁郡東員町 | 10 | 〃 | 100 | あり | | 〃 | |
| Toyo Tire Holdings of Americas Inc. | アメリカ カリフォルニア州 サイプレス | 199,110 千US\$ | 〃 | 100 | あり | | | |
| Toyo Tire U.S.A. Corp. | アメリカ カリフォルニア州 サイプレス | 25,410 千US\$ | 〃 | 100 (100) | あり | | 当社製品の販売 | |
| Nitto Tire U.S.A. Inc. | アメリカ カリフォルニア州 サイプレス | 2,000 千US\$ | 〃 | 100 (100) | あり | | 〃 | |
| Toyo Tire North America OE Sales LLC | アメリカ ジョージア州 パートゥ郡 | 500 千US\$ | タイヤ事業 自動車 部品事業 | 100 (100) | あり | | 〃 | |
| Toyo Tire North America Manufacturing Inc. | アメリカ ジョージア州 パートゥ郡 | 150,000 千US\$ | タイヤ事業 | 100 (100) | あり | | | |
| Toyo Automotive Parts (USA), Inc. | アメリカ ケンタッキー州 フランクリン | 29,000 千US\$ | 自動車 部品事業 | 100 | あり | あり | 原材料の供給 | |
| TMM (USA), Inc. | アメリカ ケンタッキー州 フランクリン | 7,000 千US\$ | 〃 | 70 | あり | | | |
| Toyo Tire Canada Inc. | カナダ ブリティッシュ コロンビア州 リッチモンド | 3,000 千C\$ | タイヤ事業 | 60 | あり | | 当社製品の販売 | |
| Nitto Tire Canada Inc. | カナダ ブリティッシュ コロンビア州 リッチモンド | 1,000 千C\$ | 〃 | 100 (100) | あり | | 〃 | |

| 名称 | 住所 | 資本金 又は 出資金 (百万円) | 主要な事業 の内容 | 議決権の 所有割合 (%) | 関係内容 | | | |
|--|-------------------------------------|---------------------------|----------------------|---------------------|------------|------|-------------------|---------------|
| | | | | | 役員の 兼任等 | 資金貸付 | 営業上の取引 | 設備の賃貸 |
| NT Mexico S.de R.L.de C.V. | メキシコ ティファナ | 2,590 千US\$ | タイヤ事業 | 100 (1) | あり | | 当社製品の販売 | |
| TOYO AUTOMOTIVE PARTS DE MEXICO,S.A.DE C.V. | メキシコ グアナファト州 イラパト市 | 28,750 千MXN | タイヤ事業 自動車 部品事業 | 100 (1) | あり | | " | |
| Toyo Tire Europe GmbH | ドイツ ヴェリッヒ | 3,977 千EUR | タイヤ事業 | 60 | あり | | " | |
| Toyo Tire Deutschland GmbH | ドイツ ヴェリッヒ | 5,000 千EUR | " | 60 (60) | あり | | " | |
| Toyo Tyre (UK) Ltd. | イギリス ノーザンプトン州 ラシュデン | 1,000 千 | " | 60 (60) | あり | | " | |
| Toyo Tire Benelux B.V. | オランダ ローゼンダール | 1,146 千EUR | " | 60 (60) | あり | | " | |
| Toyo Tire Italia S.p.A. | イタリア コルサルベッティ | 500 千EUR | " | 60 (60) | あり | | " | |
| TOYO TIRE RUS LLC | ロシア モスクワ | 50,000 千RUB | " | 60 | あり | | " | |
| Toyo Tyre and Rubber Australia Ltd. | オーストラリア ニュー・サウス ウェールズ州 ミント | 15,000 千A\$ | " | 74 | あり | | " | |
| Silverstone Berhad | マレーシア クアラルンプール | 203,877 千M\$ | " | 100 | あり | | 同社製品の仕入 | |
| Silverstone Marketing Sdn Bhd | マレーシア クアラルンプール | 500 千M\$ | " | 100 (100) | あり | | | |
| Silverstone Polymer Industries Sdn Bhd | マレーシア クアラルンプール | 10 千M\$ | " | 100 (100) | あり | | | |
| Toyo Tyre Malaysia Sdn Bhd | マレーシア ペラ州 イポー | 675,000 千M\$ | " | 100 | あり | | | |
| TOYO TYRE SALES AND MARKETING MALAYSIA SDN.BHD. | マレーシア セランゴール州 シャー・アラム | 30,000 千M\$ | " | 100 | あり | | 同社製品の仕入 | |
| TOYO RUBBER CHEMICAL PRODUCTS (THAILAND) LIMITED | タイ アユタヤ県 ウタイ | 178,000 千THB | 自動車 部品事業 | 100 | あり | | 原材料の供給 | |
| Toyo Tire (Thailand) Co.,LTD. | タイ バンコク | 100,000 千THB | タイヤ事業 | 100 | あり | | 当社製品の販売 | |
| 通伊欧輪胎(上海)貿易 有限公司 | 中華人民共和国 上海市 | 24,830 千RMB | " | 60 | あり | | " | |
| 通伊欧輪胎張家港有限公司 | 中華人民共和国 江蘇省 | 100,000 千US\$ | " | 100 | あり | あり | 同社製品の仕入 | |
| 通伊欧輪胎(諸城)有限公司 | 中華人民共和国 山東省 | 330,137 千RMB | " | 100 | あり | あり | " | |
| 東洋橡塑(広州)有限公司 | 中華人民共和国 広東省 | 89,666 千RMB | 自動車 部品事業 | 100 | あり | | 原材料の供給 | |
| (持分法適用関連会社) トーヨーリトレッド㈱ | 新潟県 糸魚川市 | 100 | タイヤ事業 | 50 | あり | | 原材料の供給 同社製品の仕入 | 社屋一部 土地・建物 |
| ㈱ティ・ティ・エム | 愛知県 みよし市 | 200 | 自動車 部品事業 | 35 | あり | | | |
| 正東機械(昆山)有限公司 | 中華人民共和国 江蘇省 | 67,926 千RMB | タイヤ事業 | 50 | あり | | 当社生産設備の 製造 | |
| 洋新工業股份有限公司 | 中華民国 彰化県 | 100,000 千NT\$ | 自動車 部品事業 | 50 | あり | | 同社製品の仕入 | |

- (注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメント情報の名称を記載しております。
- 2 議決権の所有割合の()内は、間接所有割合で内数であります。
- 3 特定子会社は、(株)トーヨータイヤジャパン、Toyo Tire North America Manufacturing Inc.、Toyo Tire U.S.A. Corp.、Toyo Tire Holdings of Americas Inc.、Toyo Automotive Parts (USA), Inc.、Silverstone Berhad、Toyo Tyre Malaysia Sdn Bhd、通伊欧輪胎張家港有限公司及び通伊欧輪胎(諸城)有限公司であります。
- 4 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。
- 5 売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)が連結売上高の10%を超える連結子会社の「主要な損益情報等」は次のとおりであります。

| 名称 | 売上高 (百万円) | 経常利益 (百万円) | 当期純利益 (百万円) | 純資産額 (百万円) | 総資産額 (百万円) |
|------------------------|--------------|---------------|----------------|---------------|---------------|
| Toyo Tire U.S.A. Corp. | 95,766 | 791 | 831 | 11,893 | 39,466 |
| Nitto Tire U.S.A. Inc. | 60,163 | 733 | 602 | 7,028 | 22,163 |
| (株)トーヨータイヤジャパン | 57,084 | 1,447 | 795 | 7,870 | 35,746 |

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2018年12月31日現在

| セグメントの名称 | 従業員数(名) |
|----------|----------------|
| タイヤ事業 | 11,074 (1,277) |
| 自動車部品事業 | |
| その他 | 18 (26) |
| 全社(共通) | 357 (52) |
| 合計 | 11,449 (1,355) |

- (注) 1 従業員数は就業人員数(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時従業員は()内に外数で記載しております。
- 2 臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。
- 3 当社グループでは、セグメント毎の経営組織体系を有しておらず、同一の従業員が複数の事業の種類に従事しております。
- 4 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

2018年12月31日現在

| 従業員数(名) | 平均年齢(歳) | 平均勤続年数(年) | 平均年間給与(千円) |
|-------------|---------|-----------|------------|
| 3,532 (571) | 38.6 | 13.2 | 6,037 |

| セグメントの名称 | 従業員数(名) |
|----------|-------------|
| タイヤ事業 | 3,175 (519) |
| 自動車部品事業 | |
| 全社(共通) | 357 (52) |
| 合計 | 3,532 (571) |

- (注) 1 従業員数は就業人員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時従業員は()内に外数で記載しております。
- 2 臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。
- 3 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
- 4 当社では、セグメント毎の経営組織体系を有しておらず、同一の従業員が複数の事業の種類に従事しております。
- 5 全社(共通)として、記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社グループ(当社及び連結子会社)は円満な労使関係を保っており、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 経営方針

会社の経営の基本方針

当社グループは2017年1月1日付で「社是」「私たちの使命」「私たちのありたい姿」「私たちの持つべき価値観」を新たに理念体系として整備し、全役員・全従業員がこれらの理念を実践、体現することを基本的な経営姿勢としております。

当社グループは、理念に掲げた使命を果たし、ありたい姿を実現していくために、経営基盤の強化、よき企業風土の醸成、また、企業価値を高める事業戦略を打ち立て、その確かな遂行に努めていくことを経営の基本方針としております。

目標とする経営指標及び中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、今後予想される事業環境の動向を前提に2020年の先を見据え、持続的な成長を実現するために、その礎となる中期的なシナリオとして、2017年を起点に取り組む4ヵ年の中期経営計画「中計'17」を策定しました。モビリティ分野をビジネスの中核として、2020年度に売上高4,800億円、営業利益600億円、営業利益率12.5%の達成を経営目標に掲げています。

グループ全社がワンチームとなって独自ポートフォリオの強みを発揮することにより、お客様の期待や満足を超える感動や驚きを生み出し、豊かな社会づくりに貢献できる企業を目指してまいります。

(2) 当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社は、当社の株式の大量取得を目的とする買付者（以下、買付者という。）としては、当社の企業価値及び株主共同の利益に資する者が望ましいと考えております。また、買付者の提案を許容するか否かは、最終的には株主の皆様の判断に委ねられるべきものと考えております。しかしながら、株式の買付や提案の中には、企業価値及び株主共同の利益に資さないものが存在する可能性もあり、そのような買付や提案は不適切なものであると考えております。

現在のところ、買付者が出現した場合の具体的な取り組みをあらかじめ定めるものではありませんが、このような場合には直ちに当社として最も適切と考えられる措置をとり得る体制を整えております。

具体的には、社外の専門家を含めて株式の買付や提案の検討・評価や買付者との交渉を行い、当該買付や提案及び買付者が当社の企業価値及び株主共同の利益に資するか否かを慎重に判断し、これに資さない場合には最も適切と考えられる措置を講じてまいります。

(3) その他

免震ゴム問題への対応

2015年度において、当社又は当社の子会社である東洋ゴム化工品株式会社が製造・販売していた製品（建築用免震積層ゴム）の一部が国土交通大臣認定の性能評価基準に適合していない事実及び国土交通大臣認定取得に際し、その一部に技術的根拠のない申請があった事実が判明しました。

当社グループは、本件問題の判明後、本件問題への対応を経営の最優先課題と位置づけ、当社グループを挙げて取り組んでおります。2018年12月31日現在において、対象物件全154棟のうち、127棟の工事に着手し、このうち105棟について不適合製品の交換を完了しました。引き続き、改修工事の対象となる全ての建築物において問題解決に取り組んでまいります。

また、当社グループは、本件問題が当社グループの社会的責任や企業倫理に関わる問題であることを真摯に受け止め、「品質保証改善並びにコンプライアンス啓発強化」と「コーポレート基盤の継続的改善・充実」を柱とする再発防止策に引き続き取り組んでまいります。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項は、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経済環境及び需要動向の影響について

当社グループの売上高は、タイヤ事業及び自動車部品事業により構成されており、世界的な景気減速による自動車販売の落ち込みなどの自動車産業の景況は、連結業績に影響を与える可能性があります。また、当社グループはグローバルな事業展開を進めており、特に北米・欧州・アジアなどの主要市場の経済状況は連結業績に影響を及ぼす可能性があります。国内需要については、景気の動向や暖冬による冬用タイヤ需要の減少に左右され、連結業績にも影響を及ぼす可能性があります。

(2) 海外投資等に関わる影響について

当社グループは、グローバルな需要に対応する柔軟な供給体制確立のため、海外生産拠点への投資を行っております。適正な投資運用を行っておりますが、世界的な景気の変動などにより、計画とは異なる成果となることで、連結業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 外国為替変動の影響について

当社グループの海外売上高比率は、2015年12月期 67.1%、2016年12月期 65.1%、2017年12月期 67.2%、2018年12月期 71.5%となっており、海外売上高が連結売上高の半分以上を占めております。このため為替予約などによるリスクヘッジを行っておりますが、為替変動が、連結業績に影響を与える可能性があります。

(4) 主要原材料価格変動の影響について

当社製品の主要原材料は天然ゴム、合成ゴム及びその他石油化学品であります。これらの仕入価格は、原油、ナフサ及び天然ゴムの国際市況によって大きく影響を受けます。また、天然ゴムをはじめとし輸入品も多く為替変動の影響も受けます。これらが連結業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 株価変動の影響について

当社グループは市場性のある株式を保有しております。このため全般的かつ大幅な株価下落が続いた場合、保有有価証券に減損又は評価損が発生し、連結業績に影響を与える可能性があります。

(6) 金利変動の影響について

当社グループは、キャッシュ・プーリング・システムの導入等により子会社の資金調達並びに資金管理の一元化を図るなど金融収支を改善するとともに、資金調達手段の多様化や長期借入金比率を高めることにより金利変動リスクのヘッジを行っております。これら取り組みを行っておりますが、金融環境が急速に悪化した場合や金利が中長期的に上昇した場合には資金調達コストが上昇し、連結業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 災害等の影響等について

当社グループは、災害等（地震・火災・風水害・疾病・戦争・テロ等）による影響を最小限にするため、設備の定期的点検の実施、有事の際の対応策の設定・訓練などの取り組みを行っております。しかしながら、大規模な災害等の発生や生産拠点及び原材料の仕入先並びに製品の納入先で災害等が発生した場合、連結業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 製品の品質による影響について

当社グループは、品質管理を経営の最重要課題とし、品質管理体制に万全を期しておりますが、製品の欠陥や不良が発生しない保証はありません。大規模なリコールや欠陥に起因する多額の損害賠償が起きた場合には、連結業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 知的財産権について

当社グループは、技術ノウハウの蓄積と知的財産権の保護に努めておりますが、第三者の知的財産権の侵害を効果的に防止できないことがあります。また、当社グループの製品又は技術が、第三者から知的財産権を侵害したとして訴訟を受け、それが認められた場合には、連結業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 法律・規制について

当社グループは、経営の基本としてコンプライアンス体制の強化、内部統制機能の充実に努めております。それにもかかわらず、法律・規制を遵守できなかった場合、活動の制限やコストの増加につながり、連結業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループは、国内外の事業活動に関連して、訴訟や各国当局による捜査・調査の対象となる可能性があり、重要な訴訟が提起された場合や、各国当局による捜査・調査が開始された場合には、連結業績に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 退職給付債務について

当社グループの従業員退職給付費用及び債務は、割引率等数理計算上で設定される前提条件や年金資産の期待運用収益率に基づいて計算を行っております。このため、実際の金利水準の変動や年金資産の運用利回りが悪化した場合には、連結業績に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 財務制限条項による影響について

当社グループが締結している借入金契約には、財務制限条項が付されているものがあり、この条項に抵触し、一括返済を求められた場合には、連結業績に影響を及ぼす可能性があります。

(13) 免震積層ゴムの大臣認定不適合等の影響について

当社グループは、本件対応を経営の最優先課題と位置づけ、迅速かつ誠意をもってこの対策を進めております。2015年3月13日に発表した国土交通大臣認定の性能評価基準に適合していない製品等については、所有者様、使用者様、施主様、建築会社様等の関係者様のご意向に反しない限り、原則として、当該免震ゴム全基（納入物件数55物件、全2,052基）について、当初の設計段階において求められた性能評価基準に適合する製品へと取り替える方針です。また、2015年3月13日に公表した以外の製品においても、国土交通大臣認定の性能評価基準に適合していなかった製品の存在が判明し、調査結果として2015年4月21日に発表した、国土交通大臣認定の不適合が判明した建築物（納入物件数90物件、全678基）及び国土交通大臣認定への適合性が判断できない建築物（納入物件数9物件、全177基）についても、構造安全性の検証を踏まえたうえで、必要なものについては、本来求められていた性能評価基準を満たした製品への交換・改修を進める方針です。これらに関連して発生する当該製品の交換及び交換に付随する費用、訴訟による損害賠償金の負担、信用低下による他製品の売上減少などが、連結業績に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の概要は次のとおりであります。

経営成績の状況

当連結会計年度（2018年1月1日から2018年12月31日まで）における経済環境は、米国では良好な雇用・所得環境を背景に個人消費が堅調に推移し、景気の拡大が持続しました。欧州も、景気は緩やかに回復しました。わが国では、企業収益と個人消費が堅調に推移したことにより、景気の回復基調が続きました。しかしながら、世界的な貿易摩擦の激化懸念により、先行きの不透明感が拭えない状況にあります。

このような状況のもと、当社グループは、2017年を起点とする4ヵ年の中期経営計画「中計'17」の目標達成に向けて、北米市場の商品力強化と増販に向けた体制強化、商品ミックスの最適化、開発力・技術力の進化、ブランド力の向上と効率的な供給体制の構築などに取り組みました。

その結果、当連結会計年度の当社グループの売上高は3,932億20百万円（前年度比117億79百万円減、2.9%減）、営業利益は423億90百万円（前年度比29億18百万円減、6.4%減）、経常利益は383億79百万円（前年度比17億87百万円減、4.5%減）となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、製品補償対策費、製品補償引当金繰入額及び減損損失を特別損失として計上したことにより、105億53百万円（前年度比49億23百万円減、31.8%減）となりました。

なお、売上高の前年度比には、前年度末に実施した化工品事業（建築用免震ゴム事業を除く）及び硬質ウレタン事業の譲渡による影響額242億65百万円が含まれております。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

(イ) タイヤ事業

北米市場における市販用タイヤについては、大口径ライトトラック用タイヤとトラック・バス用タイヤの拡販に取り組んだことにより、販売量、売上高ともに前年度を上回りました。欧州市場における市販用タイヤについては、市場全体で販売が順調に推移したことにより、販売量、売上高ともに前年度を上回りました。

新車用タイヤにおいては、当社製品装着車種の販売が好調であったことなどにより、販売量、売上高ともに前年度を上回りました。

国内市販用タイヤにおいては、前年に値上げ前の駆け込み需要の影響があったことにより、販売量は前年度を下回りましたが、値上げの効果等により、売上高は前年度並みとなりました。

その結果、タイヤ事業の売上高は3,416億94百万円（前年度比145億97百万円増、4.5%増）、営業利益は468億79百万円（前年度比8億32百万円増、1.8%増）となりました。

(ロ) 自動車部品事業

防振ゴムの売上高は当社製品装着車種の増加により前年度を上回りましたが、シートクッションの売上高は当社製品装着車種の減少により前年度を下回りました。

その結果、自動車部品事業の売上高は514億66百万円（前年度比263億94百万円減、33.9%減、事業譲渡による影響額242億65百万円減を含む）となり、事業譲渡及び新製品の収益性の影響などにより、営業損失は45億37百万円（前年度は8億51百万円の損失）となりました。

(注) 前連結会計年度末において、化工品事業（建築用免震ゴム事業を除く）及び硬質ウレタン事業を譲渡したことに伴い、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を「ダイバーテック事業」から「自動車部品事業」へ変更しております。上述における自動車部品事業の前年度比増減については、ダイバーテック事業（化工品事業及び硬質ウレタン事業を含む。）に対するものを記載しております。

(八) 当社免震ゴム問題に係る製品補償対策費及び製品補償引当金繰入額の状況

2015年12月期において、出荷していた製品の一部が国土交通大臣認定の性能評価基準に適合していない等の事実が判明いたしました。

第4四半期決算において、状況が進捗し算定可能となったことにより、交換用の免震製品代金や改修工事費用43億33百万円、補償費用等2億58百万円、諸費用6億9百万円（主として、免震ゴム対策統括本部人件費等）を計上した結果、175億29百万円（製品補償対策費72億89百万円、製品補償引当金繰入額102億39百万円）を特別損失として計上しております。

現時点で合理的に金額を見積もることが困難なもので、今後発生する費用（主として、営業補償や遅延損害金等の賠償金、追加で判明する改修工事費用の金額が既引当額を超過する場合の費用等）がある場合には、翌年度以降の対処進行状況等によって、追加で製品補償引当金を計上する可能性があります。

財政状態の状況

当連結会計年度末の総資産は4,693億81百万円となり、前年度末に比べ44億94百万円減少しました。これは、主として、現金預金やたな卸資産等が増加した一方、株価下落等により投資有価証券が減少したことによりです。

また、負債は3,121億30百万円となり、前年度末に比べ20億69百万円増加しました。これは、主として、免震問題に係る対応の進捗により製品補償引当金が減少したことや社債が減少した一方、コマーシャル・ペーパーや長期借入金等が増加したことによりです。なお、有利子負債は1,373億27百万円となり、前年度末に比べ173億64百万円増加しました。

当連結会計年度末の純資産は1,572億51百万円となり、前年度末に比べ65億63百万円減少しました。これは、主として、親会社株主に帰属する当期純利益の計上等により利益剰余金が増加した一方、株価下落等によりその他有価証券評価差額金、円高の影響により為替換算調整勘定が減少したことによりです。

この結果、自己資本比率は32.5%となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローは、営業活動による収入が190億63百万円となり、投資活動による支出が284億28百万円となったため、純現金収支（フリー・キャッシュ・フロー）は93億64百万円のマイナスとなりました。財務活動においては128億29百万円の収入となりました。以上の結果、当連結会計年度末の現金及び現金同等物は、これら収支に為替換算差額の減少額を合わせ304億67百万円となり、前年度末と比べて25億80百万円増加しました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、製品補償関連の支払やたな卸資産の増加等の減少要因があったものの、減価償却費や税金等調整前当期純利益等の増加要因により、190億63百万円の収入（前年度比56億32百万円増、41.9%増）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却による収入等があったものの、設備投資に伴う有形固定資産の取得による支出等があり、284億28百万円の支出（前年度比177億94百万円増、167.3%増）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払や社債の償還等があったものの、コマーシャル・ペーパーの発行や長期借入れによる調達等があり、128億29百万円の収入（前年度は135億13百万円の支出）となりました。

生産、受注及び販売の状況

(イ) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 生産金額(百万円) | 前年度比(%) |
|----------|-----------|---------|
| タイヤ事業 | 361,677 | 4.2 |
| 自動車部品事業 | 42,668 | 29.3 |
| 合計 | 404,346 | 0.8 |

(注) 1 金額は、販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(ロ) 受注状況

当社グループは製品の性質上、原則として需要見込生産方式を採っております。

(ハ) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 販売金額(百万円) | 前年度比(%) |
|----------|-----------|---------|
| タイヤ事業 | 341,693 | 4.5 |
| 自動車部品事業 | 51,466 | 33.9 |
| その他 | 60 | 14.2 |
| 合計 | 393,220 | 2.9 |

(注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(注) 前連結会計年度末において、化工品事業（建築用免震ゴム事業を除く）及び硬質ウレタン事業を譲渡したことに伴い、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を「ダイバーテック事業」から「自動車部品事業」へ変更しております。上述における自動車部品事業の前年度比増減については、ダイバーテック事業（化工品事業及び硬質ウレタン事業を含む。）に対するものを記載しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積もり

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、必要と思われる見積りは合理的な基準に基づいて実施しております。

詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4 会計方針に関する事項」に記載のとおりであります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当社グループの連結会計年度の経営成績等は、次のとおりであります。

なお、当社グループの経営に影響を与える要因につきましては、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

(イ) 売上高

主にタイヤ事業において、北米市場の商品力強化と増販に向けた体制強化、市場動向に応じた商品ミックス最適化等により、売上高は堅調に推移しましたが、前連結会計年度末に実施した化工品事業（建築用免震ゴム事業を除く）及び硬質ウレタン事業の譲渡による影響により、売上高は3,932億20百万円（前年度比117億79百万円減、2.9%減）となりました。

(ロ) 営業利益

北米市場や欧州市場でのタイヤ販売量の増加や商品ミックス最適化等による増益要因もありましたが、広告宣伝や研究開発など将来成長のための費用の増加、ドルなどの為替の円高影響及び自動車部品事業における新商品の収益性の影響等により、営業利益は423億90百万円（前年度比29億18百万円減、6.4%減）となりました。この結果、営業利益率は、10.8%（前年度比0.4ポイント減）となりました。

(ハ) 経常利益

主にドルなどの為替の円高影響等による為替差損の計上により、経常利益は383億79百万円（前年度比17億87百万円減、4.5%減）となりました。

(ニ) 親会社株主に帰属する当期純利益

特別損失として、製品補償対策費、製品補償引当金繰入額及び自動車部品事業の固定資産の減損損失を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益は105億53百万円（前年度比49億23百万円減、31.8%減）となりました。

当連結会計年度の財政状態の分析、セグメントごとの財政状態及び経営成績の状況の分析につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 経営成績の状況」及び「(1) 経営成績等の状況の概要 財政状態の状況」に記載しております。

資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、持続的な成長を実現するために、事業機能・経営基盤の強化に一層注力し、重点ターゲット領域での着実な成長を目指しております。具体的には、北米市場の商品力強化と増販に向けた体制強化のためToyo Tire North America Manufacturing Inc.をはじめとする工場の生産設備増強や、驚きのある商品を提供する開発力・技術力の進化のため研究開発活動に取り組んでおり、当連結会計年度は、生産設備増強や合理化及び品質向上を中心に285億19百万円、基礎研究技術の強化を中心に12億2百万円の設備投資を実施いたしました。これらの投資を含む事業活動に必要な資金は自己資金及び借入金により賄いました。また、キャッシュ・プーリング・システムの導入等により子会社の資金調達並びに資金管理の一元化を図るなど金融収支を改善するとともに、資金調達手段の多様化や長期借入金比率を高めることにより金利変動リスクのヘッジを行っております。

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

なお、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な後発事象)」に記載のとおり、当社は、三菱商事株式会社を割当先とする第三者割当による新株式の発行により、2019年2月12日に509億1百万円の払込手続が完了しております。今後、当該資金を活用して、グローバルの事業基盤の強化に向け、工場設備の増強や付随する技術基盤の強化に取り組んでまいります。翌連結会計年度の設備投資金額は総額533億52百万円を計画しております。これら計画の主な内容・目的につきましては、「第3 設備の状況 3 設備の新設、除却等の計画」に記載のとおりであります。

経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、中期経営計画「中計'17」のもと、モビリティ分野をビジネスの中核として、グループ全社がワンチームとなって独自ポートフォリオの強みを発揮することにより、「中計'17」の最終年度となる2020年度に売上高4,800億円、営業利益600億円、営業利益率12.5%の達成を目指しております。当連結会計年度は、事業譲渡による影響等もあり、売上高3,932億20百万円、営業利益423億90百万円、営業利益率10.8%となりました。

また、設備投資については、「中計'17」において2017年度から2020年度までの4ヵ年累計で1,280億円を計画しており、2年目である当連結会計年度末までの2ヵ年累計で521億4百万円を実施いたしました。

当社グループは、「中計'17」の目標達成に向けて、北米市場の商品力強化と増販に向けた体制強化、市場動向に応じた商品ミックス最適化、驚きのある商品を提供する開発力・技術力の進化、ブランド力の向上と効率的な供給体制の構築などに、今後、さらに取り組んでまいります。

4 【経営上の重要な契約等】

(1) 現在、当社が締結している合併事業契約の主なものは、次のとおりであります。

| 契約締結日 | 相手先 | 契約の内容 |
|-------------|--------------------------|--|
| 1986年12月24日 | 正新橡膠工業股份有限公司 (中華民国) | 中華民国における自動車用防振ゴム製造会社として、洋新工業股份有限公司を合併 にて設立し運営する旨の契約であります。 なお、洋新工業股份有限公司に対する出資比率は以下のとおりであります。 当社 50 % 正新橡膠工業股份有限公司 50 % |

(2) 現在、当社が締結している業務提携契約の主なものは、次のとおりであります。

| 契約締結日 | 相手先 | 契約の内容 |
|------------|------------|--|
| 2008年5月16日 | 株式会社ブリヂストン | 世界のタイヤ・ゴム産業における需要構造、競争構造、収益構造その他の経営環境 の変化に対応して更なる企業価値の向上を図るため、それぞれの事業運営の独立性 を維持しつつ、業務及び資本について緩やかな提携を図るものであります。 本合意書の締結後、業務提携の分野を選定し、その個々の分野における業務提携に ついて協議及び検討を開始いたします。資本提携は、2008年10月16日を払い込み期 日とする第三者割当により、株式会社ブリヂストンは、当社の新株20百万株(2008 年5月16日現在)を引き受け、当社は株式会社ブリヂストンの自己株3.9百万株を 引き受けるものであります。 |

(3) 当連結会計年度において、新たに締結した経営上の重要な契約等は、次のとおりであります。

株式・事業譲渡契約の締結

| 契約締結日 | 相手先 | 契約の内容 |
|-----------|---------------|--|
| 2018年8月3日 | 株式会社東洋クオリティワン | 当社は、当社自動車部品事業セグメントの軟質ウレタン事業(バンパーの販売事業 を除く、以下「当該事業」)を株式会社東洋クオリティワンに譲渡することを決定 し、2018年8月3日付で株式会社東洋クオリティワンと株式・事業譲渡契約を締結 しました。 当社の連結子会社である東洋ソフラン株式会社が運営する当該事業を吸収分割の方 法により当社が新たに設立した株式会社ティ・ティ・エムへ承継したうえで、2018 年12月27日に()同社の発行済株式の65%、()当該事業の専業部門である当社の 連結子会社の株式会社エフ・シー・シーの発行済株式の全部、並びに()当該事業 に関する当社の販売(但し、バンパーの販売を除く)及び研究開発事業の譲渡を行 いました。 |

業務提携契約の締結

| 契約締結日 | 相手先 | 契約の内容 |
|------------|----------|--|
| 2018年11月1日 | 三菱商事株式会社 | 将来の成長に向けて事業と経営の基盤を更にステージアップさせるために、三菱商 事株式会社と業務及び資本について提携を図るものです。業務提携は、当社と三菱 商事株式会社が「販売力強化」、「技術力強化」、「リソース強化」の各テーマで 協働し、協力体制を強化してシナジー効果の最大化に取り組んでいくものです。ま た、資本提携は、両者間のより安定的な資本関係を構築し、かかる資本関係を基礎 として、両者の得意分野や経営資源の有効活用を促進することでシナジーを実現 し、それぞれの企業価値を向上させることを目的としております。2019年2月12日 を払い込み期日とする第三者割当により、三菱商事株式会社が当社の新株 26,931,956株を引き受けました。 |

5 【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、2017年から2020年に向けて新中期経営計画「中計'17」に沿って進めております。

技術統括部門方針として、『技術革新と差別化技術により、顧客に「感動や驚き」のある商品を提供する』を掲げ、顧客感動に繋がる技術をスピーディーに具現化すべく研究開発を推進しております。

タイヤ事業部門・自動車部品事業部門・中央研究所の連携強化により、未来モビリティ（EV、自動運転車等）を見据え、自動車用タイヤを含め、単一機能製品群を組み合わせた「足回りモジュール」の開発に着手いたしました。引き続き、研究と技術開発の進化に取り組んでおります。

また、モビリティ社会の変化とともに、製品に求められる役割も皆さまに提供していくべき価値も変化し始めています。当社では、すでにさまざまな先行技術開発に取り組んでおり、将来に向けた新しいテクノロジーの開発を進めてまいります。

なお、当連結会計年度における研究開発費の総額は108億78百万円であります。うち、基盤技術センターで行っている各事業部門に配分できない基礎研究の費用は10億33百万円であります。

セグメントごとの研究開発活動は次のとおりであります。

(1) タイヤ事業

国内市販用タイヤについては、乗用車用低燃費タイヤカテゴリーの新スタンダードタイヤ「SD-7（エスディーセブン）」を発売いたしました。「SD-7」は低燃費性能と耐摩耗性能を高い次元で両立し、タイヤラベリング制度における転がり抵抗「A」、ウェットグリップ性能「c」を取得しております。当社独自の材料設計基盤技術「Nano Balance Technology（ナノバランステクノロジー）」を用いたトレッドゴムをはじめ、高いシミュレーション技術によるパターンデザインの採用等により、当社従来品（「TOYO TE0 plus（トヨーテオプラス）」）比で転がり抵抗を17%低減、耐摩耗性能（摩耗ライフ）を12%向上いたしました。また、プレミアムSUV用スポーツタイヤ「PROXES Sport SUV（プロクセス・スポーツエスユーブイ）」及びオンロード向けSUV用タイヤ「OPEN COUNTRY U/T（オープンカントリーユージー）」を発売いたしました。「PROXES Sport SUV」は「Nano Balance Technology」を用いて新しく開発したゴムコンパウンドをはじめ、ブロックの変形を抑制して接地面積を保持するテーパー（面取り）や、接地圧を均一化させるリップ設計等、種々の独自技術を採用し、高いレベルでのウェットグリップを実現することにより、ウェットグリップ性能で最高グレードとなる「a」を全サイズで実現いたしました。「OPEN COUNTRY U/T」は「サイレントウォール」、「5バリエーションピッチ」等の技術を採用し、オンロードにおける静粛性と快適な乗り心地を実現し、「スペシャルシリカコンパウンド」を用い、ウェット性能と転がり抵抗性能を高い次元で両立するとともに、耐摩耗性能を確保しております。

トラック・バス用タイヤについては、北米市場において、超扁平スーパーシングル445/50R22.5トレーラ用「M175（エムイチナナゴウ）」とドライブ用「M675（エムロクナナゴウ）」を発売いたしました。当社独自の設計基盤技術「e-balance（イーバランス）」と当社独自技術の特殊ベルトパッケージ採用により、タイヤ形状保持性能の実現と内部歪み低減を図り、優れた耐久性能、均一摩耗性能、低燃費性能を実現し、米国環境保護庁の定める「SmartWay（スマートウェイ）」認証を取得いたしました。また、「Nano Balance Technology」の技術革新のなかで、「ナノ加工」から耐摩耗性能を維持し、低燃費化を実現する新たな開発プロセスを確立いたしました。これにより、均一高度分散の理想的フィルターの状態が確保でき、ゴムのエネルギーロス従来比約20%低減可能といたしました。これをベースに、トラック・バス用タイヤにおいて、高い耐摩耗性能を維持しながら、さらなる低燃費化を実現しました。この当社独自の新技术によって生み出したポリマー「Nano Composite Polymer」を活用し、マレーシア工場内に導入した製造ラインで作製したゴム材料をもとに、日本の桑名工場で更なる低燃費化を実現した超扁平スーパーシングルタイヤの製造を開始しました。また、オンアンドオフ使用のサービストラック向けのオールポジション新商品「M655（エムロクゴウゴウ）」を発売いたしました。1年を通してフロントとドライブの両方で使用でき、なおかつシビアな路面に対応できるタイヤという求めに応じるため、「M655」は深溝新パターンにより、マッド・スノー路面での優れたトラクション性能と耐偏摩耗性能を、耐悪路配合採用により、優れた耐カット性能と耐久性能を実現し、独自のサイドプロテクター採用により、チェーンによるダメージ軽減を向上いたしました。日本市場においては、低燃費タイヤブランド「NANOENERGY（ナノエナジー）」シリーズより、オールウェザータイヤの新商品「NANOENERGY M676（エムロクナナロク）」を発売いたしました。トラック・バス用タイヤは、低燃費性能と耐摩耗性能という相反性能の両立が求められております。「e-balance」と「Nano Balance Technology」を活用し、現行低燃費商品「ZEROSYS（ゼロシス）」シリーズの優れた低燃費性能を受け継ぎ、相反性能である摩耗ライフを大きく向上いたしました。

当事業に係る研究開発費は80億36百万円であります。

(2) 自動車部品事業

自動車用防振ゴム部品については、電気自動車向けとして従来の耐熱性、耐寒性、高耐久性に加え、高い減衰力を持ちながら、高周波数領域では低い動パネ定数を持つゴム製品の開発を行っております。また、顧客のCOMMONモジュール化に対する部品のラインナップ増加についても、設計モジュール化での対応により、精度の高い開発体制の構築を目指しています。

先行技術開発においては、高性能化、軽量化、コストダウンを軸に新製品の開発を進め、軽量化についてはゴムや金属の代替として樹脂の適用を進めています。また、自動運転に対応した乗り心地向上のため、タイヤと防振製品の独自技術とモデルベース開発を基盤としたサスペンションモジュールの開発も行っております。

トラック・バス用部品については、自動車用防振ゴムの技術を流用し、一部の鋼製部品の樹脂化により、コストダウン、軽量化を図り、競争力向上を目指しております。

当事業に係る研究開発費は18億8百万円であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資（有形固定資産のほか無形固定資産を含む）は、総額297億22百万円であり、そのうちタイヤ事業については、合理化及び品質向上、Toyo Tire North America Manufacturing Inc.やToyo Tyre Malaysia Sdn Bhdの生産設備増強を中心に247億38百万円、自動車部品事業については、合理化及び品質向上を中心に37億81百万円、その他については、基礎研究技術の強化を中心に12億2百万円の設備投資を実施しました。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2018年12月31日現在

| 事業所名 (所在地) | セグメントの 名称 | 設備の内容 | 帳簿価額(百万円) | | | | | 従業員数 (名) |
|---|------------------------|------------------------|-----------------|-------------------|--------------------------------|-------|--------|-------------|
| | | | 建物 及び 構築物 | 機械装置 及び 運搬具 | 土地 (面積㎡) [面積㎡] | その他 | 合計 | |
| 仙台工場 (宮城県岩沼市) | タイヤ事業 | タイヤ 生産設備 | 4,004 | 7,606 | 1,359 (229,923) [13,404] | 3,639 | 16,611 | 1,101 |
| 桑名工場 (三重県員弁郡東員町) | タイヤ事業 及び自動車 部品事業 | タイヤ及び 自動車部品 生産設備 | 5,176 | 7,677 | 6,648 (377,806) [57,188] | 2,243 | 21,745 | 1,431 |
| 兵庫事業所 (兵庫県加古郡稲美町) | 自動車 部品事業 | 自動車部品 生産設備 | 539 | 0 | 353 (71,382) | 3 | 897 | 10 |
| 本社、タイヤ技術センター 他 (兵庫県伊丹市他) (注) 3 | タイヤ事業 及び自動車 部品事業 | 営業設備及 び研究設備 他 | 7,312 | 1,461 | 4,037 (421,712) | 4,390 | 17,201 | 688 |
| 基盤技術センター (兵庫県川西市) | タイヤ事業 及び自動車 部品事業 | 研究設備 | 2,093 | 457 | 909 (33,048) | 1,213 | 4,673 | 197 |

(2) 国内子会社

2018年12月31日現在

| 会社名 (所在地) | セグメントの 名称 | 設備の内容 | 帳簿価額(百万円) | | | | | 従業員数 (名) |
|---------------------------|--------------|---------------|-----------------|-------------------|-------------------------------|-----|-------|-------------|
| | | | 建物 及び 構築物 | 機械装置 及び 運搬具 | 土地 (面積㎡) [面積㎡] | その他 | 合計 | |
| 福島ゴム㈱ (福島県福島市) | タイヤ事業 | タイヤ 生産設備 | 546 | 449 | 164 (60,119) [12,344] | 260 | 1,421 | 143 |
| 東洋ソフラン㈱ (愛知県みよし市打越町他) | 自動車 部品事業 | 自動車部品 生産設備 | 902 | 196 | 1,263 (43,646) [16,986] | 31 | 2,393 | 149 |
| ㈱トーヨータイヤジャパン (東京都千代田区) | タイヤ事業 | 営業設備 | 2,359 | 247 | 4,552 (58,687) [18,865] | 408 | 7,568 | 1,049 |

(3) 在外子会社

2018年12月31日現在

| 会社名 (所在地) | セグメントの 名称 | 設備の内容 | 帳簿価額(百万円) | | | | | 従業員数 (名) |
|---|--------------|---------------|-----------------|-------------------|-------------------------------|--------|--------|-------------|
| | | | 建物 及び 構築物 | 機械装置 及び 運搬具 | 土地 (面積㎡) [面積㎡] | その他 | 合計 | |
| Toyo Tire U.S.A. Corp. (米国 カリフォルニア州) | タイヤ事業 | 営業設備 | 3,299 | 93 | | 207 | 3,600 | 71 |
| Toyo Tire North America Manufacturing Inc. (米国 ジョージア州) | タイヤ事業 | タイヤ 生産設備 | 14,510 | 46,386 | 195 (840,155) [591,467] | 12,269 | 73,362 | 1,287 |
| Toyo Automotive Parts (USA), Inc. (米国 ケンタッキー州) | 自動車 部品事業 | 自動車部品 生産設備 | 822 | 1,208 | 67 (162,765) | 235 | 2,334 | 291 |
| Silverstone Berhad (マレーシア クアラルン プール) | タイヤ事業 | タイヤ 生産設備 | 1,012 | 4,779 | [171,744] | 3,226 | 9,069 | 1,322 |
| Toyo Tyre Malaysia Sdn Bhd (マレーシア ペラ州) | タイヤ事業 | タイヤ 生産設備 | 6,058 | 11,117 | [600,600] | 3,215 | 20,391 | 1,181 |
| 通伊欧輪胎張家港有限公司 (中国 江蘇省) | タイヤ事業 | タイヤ 生産設備 | 2,658 | 3,914 | [142,886] | 538 | 7,111 | 361 |
| 通伊欧輪胎(諸城)有限公司 (中国 山東省) | タイヤ事業 | タイヤ 生産設備 | 903 | 1,096 | [157,049] | 712 | 2,713 | 562 |
| 東洋橡塑(広州)有限公司 (中国 広東省) | 自動車 部品事業 | 自動車部品 生産設備 | 516 | 1,762 | [37,037] | 199 | 2,478 | 361 |
| Toyo Tyre and Rubber Australia Ltd. (オーストラリア ニュー・ サウスウェールズ州) | タイヤ事業 | 営業設備 | 547 | 1,013 | 301 (79,400) [32,592] | 59 | 1,923 | 118 |

(注) 1 金額は、帳簿価額によっており、「その他」は工具、器具及び備品、建設仮勘定、無形固定資産及びリース資産であります。

2 土地面積の[]内は賃借中のものを示し外数で表示しております。賃借料は216百万円であります。

3 本社、タイヤ技術センター他の土地のうち主な所在地

| 事業所名 | 内容 | 所在地 | 面積(㎡) | 帳簿価額 (百万円) |
|--------------|-------------------|--------------|---------|---------------|
| 本社、タイヤ技術センター | 本社事業所、研究設備他 | 兵庫県伊丹市 | 19,145 | 433 |
| 宮崎タイヤ試験場 | タイヤテストコース | 宮崎県児湯郡都農町 | 138,001 | 345 |
| サロマタイヤテストコース | タイヤテストコース | 北海道常呂郡佐呂間町 | 236,632 | 243 |
| 厚生施設 | 社宅保養施設 | 兵庫県伊丹市 他3ヶ所 | 7,866 | 1,952 |
| 貸与土地 | 関係会社等に対する 貸与土地 | 東京都杉並区 他15ヶ所 | 18,617 | 1,019 |

3 【設備の新設、除却等の計画】

翌連結会計年度の設備投資計画金額は533億52百万円であり、セグメントごとの内訳は次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 2018年12月末 計画金額(百万円) | 設備等の主な内容・目的 |
|----------|------------------------|----------------------------|
| タイヤ事業 | 49,335 | 増産、合理化、品質向上及びグローバル供給体制への対応 |
| 自動車部品事業 | 2,522 | 品質向上 |
| 全社(共通) | 1,495 | 基礎研究技術の強化 |
| 合計 | 53,352 | |

(注) 1 今後の所要額533億52百万円は、自己資金及び借入金により充当する予定であります。

2 上記の金額は、消費税等を含んでおりません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 400,000,000 |
| 計 | 400,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 事業年度末現在 発行数(株) (2018年12月31日) | 提出日現在 発行数(株) (2019年3月28日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|------------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|------------------|
| 普通株式 | 127,179,073 | 154,111,029 | 東京証券取引所 (市場第一部) | 単元株式数は100株であります。 |
| 計 | 127,179,073 | 154,111,029 | | |

(注) 2019年2月12日を払込期日とし、三菱商事株式会社を割当先とする第三者割当による新株式発行を実施したことにより、事業年度末現在発行数と提出日現在発行数に差異が生じております。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (千株) | 発行済株式 総数残高 (千株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|---------------------|------------------------|-----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 2014年7月1日 (注) 1 | 127,179 | 127,179 | | 30,484 | | 28,507 |
| 2017年3月30日 (注) 2 | | 127,179 | | 30,484 | 20,885 | 7,621 |

- (注) 1 2014年3月28日開催の第98回定時株主総会の決議により、2014年7月1日付で当社の発行する普通株式につき、2株を1株とする株式併合を行いました。
- 2 会社法第448条第1項の規定及び2017年3月30日開催の第101回定時株主総会の決議に基づき、2017年3月30日付で資本準備金20,885百万円を減少し、その他資本剰余金へ振り替えております。
- 3 2019年2月12日を払込期日とし、三菱商事株式会社を割当先とする第三者割当による新株式発行を実施したことにより、発行済株式総数が26,931千株、資本金及び資本準備金がそれぞれ25,450百万円増加しております。

(5) 【所有者別状況】

2018年12月31日現在

| 区分 | 株式の状況(1単元の株式数100株) | | | | | | | | 単元未満株式の状況(株) |
|-------------|--------------------|---------|----------|---------|---------|------|---------|-----------|--------------|
| | 政府及び地方公共団体 | 金融機関 | 金融商品取引業者 | その他の法人 | 外国法人等 | | 個人その他 | 計 | |
| | | | | | 個人以外 | 個人 | | | |
| 株主数(人) | | 49 | 44 | 187 | 296 | 10 | 9,671 | 10,257 | |
| 所有株式数(単元) | | 391,038 | 25,520 | 254,513 | 484,279 | 68 | 115,099 | 1,270,517 | 127,373 |
| 所有株式数の割合(%) | | 30.78 | 2.01 | 20.03 | 38.11 | 0.01 | 9.06 | 100.00 | |

(注) 1 自己株式186,769株のうち1,867単元は「個人その他」の欄に、69株は「単元未満株式の状況」の欄に含めております。

2 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が10単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2018年12月31日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数(千株) | 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%) |
|---|---|-----------|-----------------------------------|
| 株式会社ブリヂストン | 東京都中央区京橋3丁目1番1号 | 10,000 | 7.87 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 東京都港区浜松町2丁目11番3号 | 9,066 | 7.13 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 東京都中央区晴海1丁目8-11 | 6,497 | 5.11 |
| トヨタ自動車株式会社 | 豊田市トヨタ町1番地 | 4,774 | 3.75 |
| BNYM RE FMSF-FRANKLIN MUTUAL GLO DISCOVERY FD (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行決済事業部) | 101 J.F.K.PARKWAY SHORT HILLS, NEW JERSEY 07078 USA (東京都千代田区丸の内2丁目7-1) | 4,446 | 3.50 |
| ORBIS SICAV (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店) | 31, Z. A. BOURMICH, L-8070 BERTRANGE, LUXEMBOURG (東京都新宿区新宿6丁目27番30号) | 3,915 | 3.08 |
| 三菱商事株式会社 | 東京都千代田区丸の内2丁目3番1号 | 3,890 | 3.06 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9) | 東京都中央区晴海1丁目8-11 | 3,804 | 2.99 |
| 株式会社三菱UFJ銀行 | 東京都千代田区丸の内2丁目7番1号 | 2,823 | 2.22 |
| SAJAP (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行決済事業部) | P.O.BOX 2992 RIYADH 11169 KINGDOM OF SAUDI ARABIA (東京千代田区丸の内2丁目7-1) | 2,637 | 2.07 |
| 計 | | 51,857 | 40.83 |

(注) 1 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

| | |
|----------------------------|---------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 9,066千株 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 6,497千株 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9) | 3,804千株 |

2 2018年5月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、みずほ証券株式会社並びにその共同保有者であるアセットマネジメントOne株式会社が2018年5月15日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2018年12月31日における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

| 氏名又は名称 | 住所 | 保有株券等の数(千株) | 株券等保有割合(%) |
|-------------------|-------------------|-------------|------------|
| みずほ証券株式会社 | 東京都千代田区大手町1丁目5番1号 | 1,596 | 1.26 |
| アセットマネジメントOne株式会社 | 東京都千代田区丸の内一丁目8番2号 | 4,164 | 3.27 |
| 計 | | 5,761 | 4.53 |

- 3 2018年9月20日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書（変更報告書）において、Wellington Management Company LLP並びにその共同保有者であるWellington Management Hong Kong Ltd及びWellington Management Japan Pte Ltdが2018年9月14日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2018年12月31日における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、大量保有報告書（変更報告書）の内容は以下のとおりであります。

| 氏名又は名称 | 住所 | 保有株券等の数 (千株) | 株券等保有割合 (%) |
|-------------------------------------|---|-----------------|----------------|
| Wellington Management Company LLP | アメリカ合衆国、02210 マサチューセッツ州ボストン、コンGRESS・ストリート280 | 2,767 | 2.18 |
| Wellington Management Hong Kong Ltd | 香港、セントラル、ファイナンス・ストリート8、トゥー・インターナショナル・ファイナンス・センター17階 | 4,486 | 3.53 |
| Wellington Management Japan Pte Ltd | 東京都千代田区丸の内一丁目1番1号パレスビル7階 | 1,081 | 0.85 |
| 計 | | 8,335 | 6.55 |

- 4 2018年10月15日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書（変更報告書）において、株式会社三菱UFJ銀行並びにその共同保有者である三菱UFJ信託銀行株式会社及び三菱UFJ国際投信株式会社が2018年10月8日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2018年12月31日における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、大量保有報告書（変更報告書）の内容は以下のとおりであります。

| 氏名又は名称 | 住所 | 保有株券等の数 (千株) | 株券等保有割合 (%) |
|---------------|--------------------|-----------------|----------------|
| 株式会社三菱UFJ銀行 | 東京都千代田区丸の内二丁目7番1号 | 2,823 | 2.22 |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 | 2,752 | 2.16 |
| 三菱UFJ国際投信株式会社 | 東京都千代田区有楽町一丁目12番1号 | 406 | 0.32 |
| 計 | | 5,981 | 4.70 |

- 5 2018年11月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書（変更報告書）において、Baillie Gifford & Co並びにその共同保有者であるBaillie Gifford Overseas Limitedが2018年10月31日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2018年12月31日における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。なお、大量保有報告書（変更報告書）の内容は以下のとおりであります。

| 氏名又は名称 | 住所 | 保有株券等の数 (千株) | 株券等保有割合 (%) |
|----------------------------------|--|-----------------|----------------|
| Baillie Gifford & Co | カルトン・スクエア、1グリーンサイド・ロウ、エジンバラ EH1 3AN スコットランド | 980 | 0.77 |
| Baillie Gifford Overseas Limited | カルトン・スクエア、1グリーンサイド・ロウ、エジンバラ EH1 3AN スコットランド | 5,411 | 4.26 |
| 計 | | 6,391 | 5.03 |

- 6 2019年2月12日を払込期日とし、2019年2月12日に三菱商事株式会社（東京都千代田区丸の内2丁目3番1号）を割当先とする第三者割当による新株式発行（26,931,956株）を実施いたしました。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2018年12月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|---|-----------|------------------|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 186,700 (相互保有株式) 普通株式 60,000 | | 単元株式数は100株であります。 |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 126,805,000 | 1,268,050 | 同上 |
| 単元未満株式 | 普通株式 127,373 | | |
| 発行済株式総数 | 127,179,073 | | |
| 総株主の議決権 | | 1,268,050 | |

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権10個)含まれております。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式及び相互保有株式が次のとおり含まれております。
- 自己株式 69株
相互保有株式 (株)エーゼーゴム洋行 61株
- 3 2019年2月12日を払込期日とし、三菱商事株式会社を割当先とする第三者割当による新株式発行を実施したことにより、提出日現在の株式発行数は事業年度末時点での発行数から26,931,956株増加し、154,111,029株となっており、完全議決権株式(その他)は153,737,000株、単元未満株式は127,329株、総株主の議決権の数は1,537,370個となっております。

【自己株式等】

2018年12月31日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%) |
|--------------------------|-------------------------|----------------------|----------------------|---------------------|--------------------------------|
| (自己保有株式) 東洋ゴム工業株式会社 | 兵庫県伊丹市藤ノ木 2丁目2番13号 | 186,700 | | 186,700 | 0.14 |
| (相互保有株式) 株式会社エーゼーゴム洋行 | 大阪市中央区南船場 3丁目3番10号 | 44,500 | | 44,500 | 0.03 |
| 茨城トーヨー株式会社 | 茨城県東茨城郡茨城町 小幡南表13-65 | 15,000 | | 15,000 | 0.01 |
| 浩洋ゴム株式会社 | 神戸市長田区菅原通 7丁目4-1 | 500 | | 500 | 0.00 |
| 計 | | 246,700 | | 246,700 | 0.19 |

- (注) 当社は、2019年1月1日付で東洋ゴム工業株式会社からTOYO TIRE株式会社へ商号変更しております。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

| 区分 | 株式数(株) | 価額の総額(円) |
|-----------------|--------|-----------|
| 当事業年度における取得自己株式 | 1,201 | 2,243,737 |
| 当期間における取得自己株式 | 115 | 171,467 |

(注) 当期間における取得自己株式には、2019年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

| 区分 | 当事業年度 | | 当期間 | |
|-----------------------------|---------|------------|---------|------------|
| | 株式数(株) | 処分価額の総額(円) | 株式数(株) | 処分価額の総額(円) |
| 引き受ける者の募集を行った取得自己株式 | | | | |
| 消却の処分を行った取得自己株式 | | | | |
| 合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式 | | | | |
| その他 (単元未満株式の買増請求による売渡) | 82 | 164,082 | | |
| 保有自己株式数 | 186,769 | | 186,884 | |

(注) 当期間における保有自己株式数には、2019年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

配当の基本的な方針は、長期的な視野に立ち安定収益構造に立脚した適正配当を行うこととしております。毎事業年度における配当の回数は、年2回(中間、期末)としておりますが、中間期の業績及び通期の業績見通し等を勘案し、決めることとしております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は定時株主総会とします。当事業年度の配当金については、当事業年度の業績及び経営基盤の強化並びに将来の事業展開等を勘案し、決定しました。

また、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

| 決議年月日 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり配当額 (円) |
|------------------------|-----------------|-----------------|
| 2018年8月10日 取締役会 | 2,539 | 20 |
| 2019年3月28日 定時株主総会決議 | 3,174 | 25 |

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

| 回次 | 第98期 | 第99期 | 第100期 | 第101期 | 第102期 | 第103期 |
|-------|----------|----------------|----------|----------|----------|----------|
| 決算年月 | 2013年12月 | 2014年12月 | 2015年12月 | 2016年12月 | 2017年12月 | 2018年12月 |
| 最高(円) | 648 | 2,613 (951) | 3,030 | 2,588 | 2,675 | 2,417 |
| 最低(円) | 256 | 1,583 (528) | 2,107 | 959 | 1,237 | 1,300 |

(注) 1 最高、最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

2 2014年3月28日開催の第98回定時株主総会の決議により、2014年7月1日付で当社の発行する普通株式につき、2株を1株とする株式併合を行いました。第99期の株価については、株式併合後の最高・最低株価を記載し、株式併合前の最高・最低株価は()にて記載しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

| 月別 | 2018年7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 最高(円) | 1,765 | 1,890 | 2,083 | 2,075 | 1,901 | 1,832 |
| 最低(円) | 1,523 | 1,555 | 1,718 | 1,773 | 1,614 | 1,300 |

(注) 最高、最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性12名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %)

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (株) |
|-------|---|---------|--------------|--|-------|--------------|
| 取締役 | 会長 | 山田 保 裕 | 1958年4月8日生 | 1983年4月 三菱商事(株)入社 2007年6月 北越製紙(株) (現北越コーポレーション(株)) 取締役 2013年4月 三菱商事(株) 紙・パッケージング部長 2015年4月 " 理事 生活商品本部長 2016年4月 " 理事 生活消費財本部長 2018年4月 当社常勤顧問 2019年3月 " 取締役会長(現任) | (注) 3 | |
| 代表取締役 | 社長 | 清 水 隆 史 | 1961年4月2日生 | 1985年4月 当社入社 2010年4月 Toyo Tire Holdings of Americas Inc. 社長 2013年1月 当社タイヤ企画本部長 2014年3月 " 執行役員 タイヤ事業本部 タイヤ企画本部長、欧州ビジネス ユニット長 2015年7月 " 常務執行役員 タイヤ事業本部 タイヤ企画本部長、北米ビジネス ユニット長 2015年11月 " 代表取締役社長(現任) | (注) 3 | 7,800 |
| 取締役 | 常務執行役員 技術統括部門管掌 免震ゴム対策統括 副本部長 | 金 井 昌 之 | 1963年9月4日生 | 1987年4月 当社入社 2010年10月 " タイヤ技術第一部長 2014年11月 " タイヤ企画部長 2016年1月 " 執行役員 タイヤ事業本部 タイヤ技術本部長 2017年1月 " 執行役員 技術統括部門管掌 2017年3月 " 常務執行役員 2019年3月 " 取締役常務執行役員(現任) | (注) 3 | 7,400 |
| 取締役 | 執行役員 販売統括部門管掌 | 光 畑 達 雄 | 1964年12月13日生 | 1988年4月 当社入社 2012年1月 Toyo Tire U.S.A. Corp. 社長 2014年7月 当社タイヤ事業本部 欧州ビジネス ユニット長 2016年1月 " 執行役員 タイヤ事業本部 タイヤ企画本部長 2017年1月 " 執行役員 北米事業推進室管掌 2019年1月 " 執行役員 販売統括部門管掌 2019年3月 " 取締役執行役員(現任) | (注) 3 | 8,000 |
| 取締役 | 執行役員 生産統括部門管掌 | 井 村 洋 次 | 1964年5月26日生 | 1987年4月 当社入社 2011年4月 " タイヤ事業本部 桑名工場 製造部長 2013年7月 Toyo Tyre Malaysia Sdn Bhd 副工場長 2014年11月 当社タイヤ生産本部桑名工場長 2017年5月 " 執行役員 生産統括部門管掌 2019年3月 " 取締役執行役員(現任) | (注) 3 | 2,967 |
| 取締役 | 執行役員 危機管理統括 コンプライアンス 統括 チーフコンプライ アンスオフィサー コーポレート統括 部門管掌 経営企画本部長 資本業務提携 推進室長 | 笹 森 建 彦 | 1962年8月7日生 | 1985年4月 三菱商事(株)入社 2007年9月 PT Krama Yudha Tiga Berlian Motors 社 (インドネシア) 取締役 2013年6月 日本食品化工(株) 取締役執行役員 2017年4月 三菱商事(株) リスク管理室長 2018年4月 当社経営企画本部長 2019年1月 " 執行役員 コーポレート統括部門管掌 2019年3月 " 取締役執行役員(現任) | (注) 3 | |

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (株) |
|-------------|----|-------|--------------|--|------|--------------|
| 取締役 | | 森田 研 | 1948年10月24日生 | 1971年4月 松下電器産業(株)(現パナソニック(株))入社 2000年10月 松下プラズマディスプレイ(株)社長 2006年4月 松下電器産業(株)パナソニックAVC ネットワークス社上席副社長 2009年6月 同社代表取締役専務 2012年6月 " 顧問 2014年11月 " 客員 2015年11月 当社取締役(現任) | (注)3 | |
| 取締役 | | 武田 厚 | 1947年2月27日生 | 1970年5月 新日本製鐵(株)(現新日鐵住金(株)) 入社 2000年4月 同社薄板事業部薄板営業部長 2002年6月 " 取締役 2006年4月 日鉄鋼板(株)(現日鉄住金鋼板(株)) 代表取締役社長 2014年6月 同社取締役相談役 2015年6月 " 相談役 2016年3月 当社取締役(現任) | (注)3 | |
| 監査役 (常勤) | | 平野 章夫 | 1959年12月1日生 | 1982年4月 当社入社 2012年4月 " 経営企画本部 情報システム 企画部長 2016年1月 " タイヤ事業本部 タイヤ物流 部長 2016年3月 " 常勤監査役(現任) | (注)4 | 9,581 |
| 監査役 (常勤) | | 山本 幸男 | 1958年12月17日生 | 1981年4月 東洋紡績(株)(現東洋紡績)入社 2008年4月 同社人事労政部長 2011年10月 " 参与 2016年3月 当社常勤監査役(現任) | (注)4 | 1,000 |
| 監査役 (常勤) | | 矢野 雅夫 | 1958年10月14日生 | 1982年4月 (株)三和銀行(現(株)三菱UFJ銀行)入行 1990年4月 同行ロスアンゼルス支店長代理 1998年11月 " シンガポール支店部門次長 2008年5月 Bank of Tokyo Mitsubishi UFJ (China),Ltd(現MUFG Bank (China), Ltd.)天津支店長 2010年10月 同行副頭取 2013年3月 株式会社ジャルカード取締役 2019年3月 当社常勤監査役(現任) | (注)5 | |
| 監査役 | | 佐伯 照道 | 1942年12月28日生 | 1968年4月 弁護士登録 1973年4月 八代・佐伯・西垣法律事務所 (現北浜法律事務所)開設(現任) 2002年4月 大阪弁護士会会長、日本弁護士 連合会副会長 2010年6月 岩井コスモホールディングス(株) 社外取締役(現任) 2012年6月 ワタベウエディング(株)社外監査役 (現任) 2014年6月 フジテック(株)社外取締役(現任) 2016年3月 当社監査役(現任) | (注)4 | 1,000 |
| 計 | | | | | | 37,748 |

- (注) 1 取締役 森田研氏及び取締役 武田厚氏は、社外取締役であります。
- 2 監査役 山本幸男氏、監査役 矢野雅夫氏及び監査役 佐伯照道氏は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、2018年12月期に係る定時株主総会終結の時から2019年12月期に係る定時株主総会終結の時
までであります。
- 4 監査役 平野章夫氏、監査役 山本幸男氏及び監査役 佐伯照道氏の任期は、2015年12月期に係る定時株主総
会終結の時から2019年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役 矢野雅夫氏の任期は、2018年12月期に係る定時株主総会終結の時から2022年12月期に係る定時株主
総会終結の時までであります。
- 6 当社では、取締役会の一層の活性化を促し、取締役会の意思決定・業務執行の監督機能と各部門の業務執行
機能を明確に区分し、経営効率の向上を図るために執行役員制度を導入しております。

(執行役員一覧)

| | | |
|---------|--------|---|
| 清水 隆 史 | 社長 | |
| 水 谷 友 重 | 常務執行役員 | Toyo Tire U.S.A. Corp. 会長、Nitto Tire U.S.A. Inc. 会長、 Toyo Tire North America OE Sales LLC 社長 |
| 金 井 昌 之 | 常務執行役員 | 技術統括部門管掌、免震ゴム対策統括副本部長 |
| 石 野 政 治 | 常務執行役員 | 免震ゴム対策統括本部長、コーポレート統括部門 事業構造改革室長、 東洋ゴム化工品(株) 社長 |
| 田 辺 伸 二 | 常務執行役員 | 品質環境安全統括部門管掌、環境安全推進本部長 |
| 鈴 木 伊 織 | 執行役員 | Toyo Tire Holdings of Americas Inc. 社長 |
| 光 畑 達 雄 | 執行役員 | 販売統括部門管掌 |
| 井 村 洋 次 | 執行役員 | 生産統括部門管掌 |
| 笹 森 建 彦 | 執行役員 | 危機管理統括、コンプライアンス統括、 チーフコンプライアンスオフィサー、 コーポレート統括部門管掌、経営企画本部長、資本業務提携推進室長 |
| 高 橋 英 明 | 執行役員 | 事業統括部門管掌、購買本部長 |
| 本 母 利 彦 | 執行役員 | 販売統括部門 直需営業本部長、免震ゴム対策統括副本部長 |
| 瀧 脇 將 雄 | 執行役員 | コーポレート統括部門 コンプライアンス・リーガル本部長、法務部長 |
| 植 松 秀 文 | 執行役員 | 免震ゴム対策統括本部 お客様対応本部長 |
| 段 則 之 | 執行役員 | 事業統括部門 S C M本部長 |
| 守 屋 学 | 執行役員 | 技術統括部門 技術開発本部長、商品開発本部長 |
| 下 村 哲 生 | 執行役員 | 技術統括部門 中央研究所長、先行工程開発本部長、新工法開発室長 |
| 栗 林 健 太 | 執行役員 | Toyo Tire Europe GmbH 社長 |

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制（2019年3月28日現在）

(イ) 企業統治の体制の概要及びその体制を採用する理由

当社における企業統治の体制は、意思決定・監督機関である「取締役会」、執行の意思決定機関である「常務会」、分野別の審議・協議機関である「各種専門委員会」、そして取締役会及び取締役の業務執行の監査機能を果たす機関として「監査役会」があり、それぞれ機能を十分発揮できる体制を整えております。

取締役会は、取締役8名（うち社外取締役2名）で構成しており、経営方針・目標・戦略など重要事項に関する意思決定及び取締役の業務執行状況を監督しております。また、社外取締役は、取締役会をはじめ重要な会議に出席し適宜忌憚のない意見を述べ、経営の監視・監督に努めております。

常務会は、社長及び統括部門管掌等の執行役員（常務執行役員又は執行役員）9名（うち取締役兼務5名）で構成し、執行の意思決定機関として、重要事項を審議・決定しております。また、常務会に付議された事項のうち、取締役会付議事項等については取締役会に上程されます。

各種専門委員会には、「コンプライアンス委員会」「危機管理委員会」「組織人事委員会」「技術委員会」「品質保証委員会」「環境・安全衛生委員会」「投融資委員会」があります。各専門委員会は、常務会の下部組織として、組織横断で検討・対応が必要な重要活動の計画立案・実績分析・改善策策定を行い、各業務執行部門に立案・策定した計画を実行させ、常務会にその進捗を報告しております。

監査役会は、社外監査役3名を含む監査役4名で構成しており、監査に関する重要事項について報告、協議、決議を行っております。また、監査役は、取締役会、常務会などの重要会議に出席し、適宜問題提起を行い、業務執行が適切に行われているかの確認及び監査の実効性の向上を図っております。

(ロ) 内部統制システムの整備の状況

当社グループは、法令・定款及び企業倫理を遵守するための行動規範として「TOYO TIREグループ企業行動憲章」及び「TOYO TIREグループ行動基準」を制定し、それらの周知徹底を図るため、取締役、執行役員、監査役及び従業員にコンプライアンス研修・教育を行っております。

コンプライアンス全般に係る事項を管掌し、コンプライアンスに関する各種施策を立案し実施するチーフコンプライアンスオフィサー（以下「CCO」という。）を責任者とするコンプライアンスオフィサー制度を導入しております。CCOを委員長とするコンプライアンス委員会を設置すると共に、各組織にコンプライアンスオフィサー（以下「CO」という。）を任命、加えてCOの指示に基づきコンプライアンスに関する事項を執行するコンプライアンスリーダーを任命する等により、コンプライアンス推進体制を構築しております。

また、従業員が直接通報・相談できる仕組みとして設置・運営している「ホットライン相談窓口」については、通報できるルートを複数確保するなどの見直しを行い、必要な情報が上がり易い体制を整えております。

(ハ) リスク管理体制の整備の状況

当社グループは、当期におきまして、危機管理体制の早期定着を目指し、従来四半期に1度の開催としていた危機管理委員会を毎月開催とすることで、各個別危機事象の改善状況の定期的な進捗管理、現行の「危機管理マニュアル」「個別対応マニュアル」に基づいたシミュレーション実施による問題点の抽出や改善、実際に発生した災害等への対応状況のレビュー等を行ってまいりました。加えて、外部コンサルタントを起用した、地震発生時を想定したシミュレーションにより、現行危機管理マニュアル・自然災害対応マニュアルの更なる改善点を抽出し、必要な改定を実施しております。今後も危機管理委員会の定期開催及び想定される危機事象に対応するための「危機管理マニュアル」「個別対応マニュアル」の整備と拡充に努め、重大なリスクが発生した場合、当該マニュアルに従い最適な対応方法を決定し、解決を図る体制を引き続き構築してまいります。

さらに、適切な事業マネジメントを推進していくことを目的として、経営資源の適正配分を促進するとともに、全社収益への貢献度やリスクの所在を見極めるため、全社共通の事業評価ガイドラインを策定し運用しております。

(ニ) 提出会社の子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社グループは、子会社を含む重要な決議・審議事項については、「取締役会規則」で上程基準を明確にするだけでなく、契約、投資、資金調達、人的配置についても社内稟議制度及び各種委員会・会議体において審議することで、業務の適正を確保しております。また、当社グループ会社の経営管理については、グループ会社に関する業務の効率化と管理の適正化を図ることを目的に制定した「関係会社管理規定」に基づき管理しております。グループ会社毎に、適正、効率的な経営ができるよう管理指導する主管部署を定め、当該本部長が管理者となり「関係会社管理規定」に則った適切な管理を行っております。

監査部はグループ会社の内部統制システムの整備状況をチェックし、問題の早期発見や損失の防止に努めるとともに、改善の方向性を提言・指導しております。

(ホ) 内部監査及び監査役監査

当社における内部監査の体制は、社長直属である監査部（現在、公認内部監査人3名を含む11名体制）を設置し、各専門部門（法務、人事、総務、財務、購買等）及び子会社の管理部署と連携し、各部門、グループ会社の業務遂行状況、コンプライアンス体制等について監査を定期的実施するとともに、監視と業務改善の助言を行っております。なお、監査部は、金融商品取引法に基づき当社グループの財務報告に係る内部統制の評価を実施し、監査役及び会計監査人と適時連携を取って業務を遂行しております。

監査役（4名）は取締役会や常務会などの重要会議に出席するだけでなく、各部門・子会社も含めた当社グループ全体の業務執行の監査を行っております。監査役の内、矢野雅夫氏は、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。また、各監査役は、内部監査部門と連携を取るだけでなく、代表取締役・取締役及び会計監査人と意見交換を行い、経営の健全化に努めております。

(ハ) 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は2名、社外監査役は3名であります。

社外取締役及び社外監査役は、それぞれの高い見識を活かし、客観的立場から提言を行うことで、期待される外部の視点での監督機能と牽制効果を果たしております。

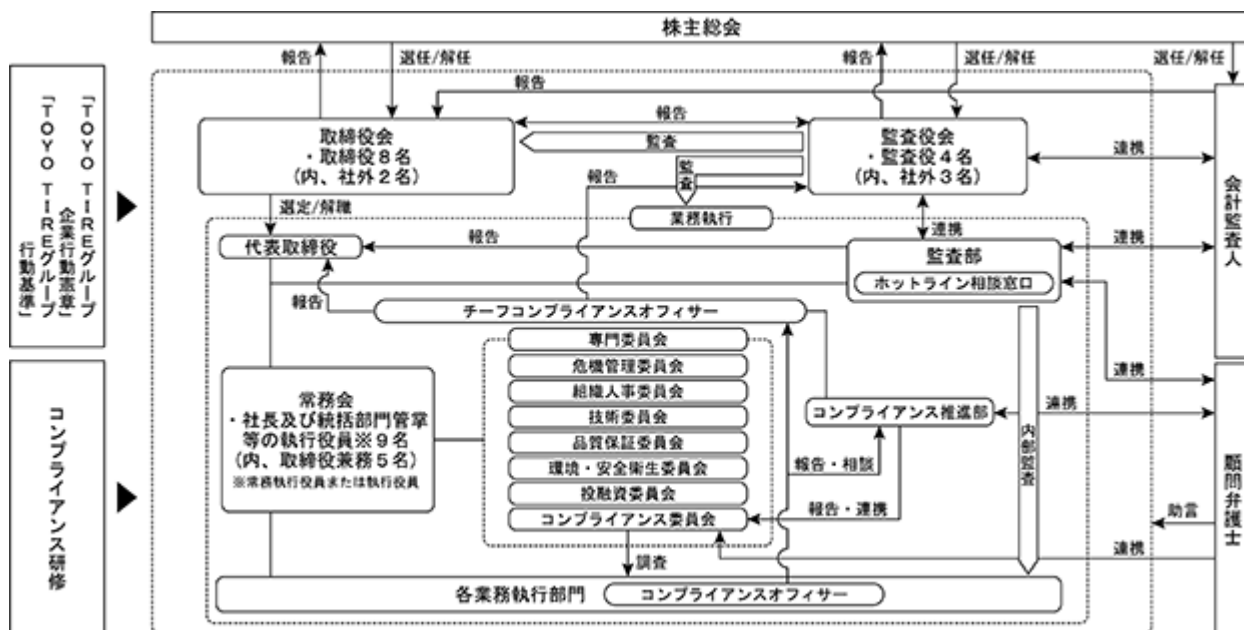
なお、当社は社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準及び方針を定めておりませんが、その選任にあたっては、東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準を参考にしております。

社外取締役及び社外監査役の選任理由

| 地位 | 氏名 | 選任理由 |
|-------|-------|--|
| 社外取締役 | 森田 研 | 経営者としての豊富な経験と幅広い見識をもとに、社外取締役としての職務を適切に遂行できると判断し、選任しました。 |
| | 武田 厚 | 経営者としての豊富な経験と幅広い見識をもとに、社外取締役としての職務を適切に遂行できると判断し、選任しました。 |
| 社外監査役 | 山本 幸男 | 企業活動に関する豊富な知識と幅広い見識をもとに、社外監査役としての職務を適切に遂行できると判断し、選任しました。 |
| | 矢野 雅夫 | 財務及び会計に関する相当程度の見識及び経営者としての豊富な知識と幅広い見識をもとに、社外監査役としての職務を適切に遂行できると判断し、選任しました。 |
| | 佐伯 照道 | 弁護士としての豊富な知識と幅広い見識をもとに、社外監査役としての職務を適切に遂行できると判断し、選任しました。 |

- 1) 社外取締役及び社外監査役並びに社外取締役及び社外監査役が在籍している又は在籍していた会社等と当社との人的関係、資本的関係又は取引関係等の特別な利害関係はありません。
- 2) 全ての社外取締役、社外監査役を、東京証券取引所の定めに基づき、一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員として届け出ております。
- 3) 全ての社外取締役、社外監査役とは会社法第427条第1項の規定に基づく損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額としております。

(ト) 会社の機関・内部統制の関係(図表)



会計監査の状況

当社は会社法に基づく会計監査人及び金融商品取引法に基づく会計監査に有限責任 あずさ監査法人を起用しております。当社と同監査法人及び当社監査に従事する業務執行社員との間には特別な利害関係はありません。当年度において業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成については、以下のとおりであります。なお、継続監査年数については7年以内であるため、記載を省略しております。

<業務を執行した公認会計士の氏名>

指定有限責任社員 業務執行社員：田中基博、吉形圭右

<監査業務に係る補助者の構成>

公認会計士 8名、 その他 10名

役員の報酬等

(イ) 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

| 役員区分 | 報酬等の総額 (百万円) | 報酬等の種類別の総額(百万円) | | | | 対象となる 役員の員数 (名) |
|--------------------|-----------------|-----------------|---------------|----|-------|-----------------------|
| | | 固定報酬 | ストック オプション | 賞与 | 退職慰労金 | |
| 取締役 (社外取締役を除く。) | 205 | 124 | | 81 | | 4 |
| 監査役 (社外監査役を除く。) | 17 | 17 | | | | 1 |
| 社外役員 | 59 | 59 | | | | 5 |

(ロ) 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

(ハ) 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

(ニ) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

取締役の報酬は、固定報酬と業績連動報酬とで構成され、固定報酬は役職別の報酬テーブルに基づき、決定しております。業績連動報酬は、役職別の基準額をもとに会社業績と個人目標の達成度に応じて評価を行い、配当政策や社員の処遇等を勘案して決定しております。また、報酬の一部を株価連動報酬として、役員持株会を通じて当社株式の購入に充てることとしております。監査役報酬は、監査役会にて決定した基準に従って算定しております。

株式の保有状況

(イ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 75銘柄
 貸借対照表計上額の合計額 45,511百万円

(ロ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
(前事業年度)

特定投資株式

| 銘柄 | 株式数 (株) | 貸借対照表 計上額(百万円) | 保有目的 |
|------------------------------------|------------|-------------------|---------------|
| (株)ブリヂストン | 3,893,204 | 20,392 | 業務・資本提携のため |
| トヨタ自動車(株) | 2,739,230 | 19,758 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)三菱UFJフィナンシャル・グループ | 3,675,600 | 3,037 | 取引関係の維持・強化のため |
| 三菱商事(株) | 607,703 | 1,891 | 取引関係の維持・強化のため |
| トナミホールディングス(株) | 217,064 | 1,239 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)山口フィナンシャルグループ | 714,000 | 956 | 取引関係の維持・強化のため |
| 福山通運(株) | 202,206 | 861 | 取引関係の維持・強化のため |
| 日産東京販売ホールディングス(株) | 1,470,000 | 595 | 取引関係の維持・強化のため |
| 第一交通産業(株) | 540,000 | 513 | 取引関係の維持・強化のため |
| テイ・エス テック(株) | 100,000 | 463 | 取引関係の維持・強化のため |
| セイノーホールディングス(株) | 242,151 | 433 | 取引関係の維持・強化のため |
| 東急建設(株) | 340,820 | 374 | 取引関係の維持・強化のため |
| 三菱倉庫(株) | 127,000 | 371 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)Misumi | 183,000 | 357 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)イチネンホールディングス | 189,904 | 306 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)CAC Holdings | 289,000 | 306 | 取引関係の維持・強化のため |
| Dongsung Corporation | 352,904 | 210 | 技術提携のため |
| 岡山県貨物運送(株) | 675,000 | 208 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)大林組 | 150,000 | 204 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)オートボックスセブン | 92,646 | 200 | 取引関係の維持・強化のため |
| 東京製綱(株) | 98,300 | 183 | 取引関係の維持・強化のため |
| V Tホールディングス(株) | 300,000 | 168 | 取引関係の維持・強化のため |
| 東京海上ホールディングス(株) | 30,635 | 157 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)めぶきフィナンシャルグループ | 292,500 | 139 | 取引関係の維持・強化のため |
| 日立建機(株) | 25,750 | 105 | 取引関係の維持・強化のため |
| 東海旅客鉄道(株) | 5,000 | 100 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)イエローハット | 23,958 | 81 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)淀川製鋼所 | 20,000 | 69 | 取引関係の維持・強化のため |
| MS & ADインシュアランスグループ ホールディングス(株) | 18,300 | 69 | 取引関係の維持・強化のため |

みなし保有株式

| 銘柄 | 株式数 (株) | 貸借対照表 計上額(百万円) | 保有目的 |
|-----------|------------|-------------------|-------------------------|
| トヨタ自動車(株) | 2,000,000 | 14,426 | 退職給付信託に拠出、議決権行使の指図権を有する |

- (注) 1 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。
- 2 みなし保有株式の保有目的については、当該株式につき提出会社が有する権限の内容を記載しております。
- 3 特定投資株式のDongsung Corporation以下13銘柄は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ですが、上位30銘柄について記載しております。

(当事業年度)

特定投資株式

| 銘柄 | 株式数 (株) | 貸借対照表 計上額(百万円) | 保有目的 |
|------------------------------------|------------|-------------------|---------------|
| トヨタ自動車(株) | 2,739,230 | 17,547 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)ブリヂストン | 3,893,204 | 16,491 | 業務・資本提携のため |
| (株)三菱UFJフィナンシャル・グループ | 3,675,600 | 1,977 | 取引関係の維持・強化のため |
| 三菱商事(株) | 607,703 | 1,835 | 業務・資本提携のため |
| トナミホールディングス(株) | 258,364 | 1,446 | 取引関係の維持・強化のため |
| 福山通運(株) | 202,206 | 855 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)山口フィナンシャルグループ | 714,000 | 753 | 取引関係の維持・強化のため |
| 日産東京販売ホールディングス(株) | 1,470,000 | 448 | 取引関係の維持・強化のため |
| 第一交通産業(株) | 540,000 | 356 | 取引関係の維持・強化のため |
| セイノーホールディングス(株) | 242,151 | 349 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)Misumi | 183,000 | 345 | 取引関係の維持・強化のため |
| 東急建設(株) | 340,820 | 339 | 取引関係の維持・強化のため |
| 三菱倉庫(株) | 127,000 | 317 | 取引関係の維持・強化のため |
| ティ・エス テック(株) | 100,000 | 302 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)CAC Holdings | 289,000 | 269 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)イチネンホールディングス | 189,904 | 218 | 取引関係の維持・強化のため |
| 岡山県貨物運送(株) | 67,500 | 198 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)オートボックスセブン | 94,094 | 171 | 取引関係の維持・強化のため |
| 東京海上ホールディングス(株) | 30,635 | 160 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)大林組 | 150,000 | 149 | 取引関係の維持・強化のため |
| V Tホールディングス(株) | 300,000 | 122 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)めぶきフィナンシャルグループ | 292,500 | 85 | 取引関係の維持・強化のため |
| 日立建機(株) | 25,750 | 66 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)イエローハット | 23,958 | 62 | 取引関係の維持・強化のため |
| MS & ADインシュアランスグループ ホールディングス(株) | 18,300 | 57 | 取引関係の維持・強化のため |
| (株)タチエス | 32,500 | 46 | 取引関係の維持・強化のため |
| 豊田通商(株)(株) | 13,000 | 42 | 取引関係の維持・強化のため |
| 鹿島建設(株) | 28,500 | 42 | 取引関係の維持・強化のため |
| マツダ(株) | 34,600 | 39 | 取引関係の維持・強化のため |

みなし保有株式

| 銘柄 | 株式数 (株) | 貸借対照表 計上額(百万円) | 保有目的 |
|-----------|------------|-------------------|-------------------------|
| トヨタ自動車(株) | 2,000,000 | 12,812 | 退職給付信託に抛出、議決権行使の指図権を有する |

- (注) 1 貸借対照表計上額の上位銘柄を選定する段階で、特定投資株式とみなし保有株式を合算しておりません。
- 2 みなし保有株式の保有目的については、当該株式につき提出会社が有する権限の内容を記載しております。
- 3 特定投資株式のティ・エス テック(株)以下16銘柄は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ですが、上位30銘柄について記載しております。

(八) 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

取締役の定数

当社の取締役は、11名以内とする旨定款に定めております。

取締役及び監査役の選任の決議要件

当社は、取締役及び監査役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数によって決する旨定款に定めております。

自己の株式の取得

当社は、機動的な対応を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

損害賠償責任の免除

当社は、取締役及び監査役が期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第426条第1項の規定に基づき、任務を怠ったことによる取締役及び監査役（取締役及び監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を法令の限度において、取締役会の決議をもって免除することができる旨定款に定めております。

中間配当の決定機関

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議をもって、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

| 区分 | 前連結会計年度 | | 当連結会計年度 | |
|-------|-------------------|------------------|-------------------|------------------|
| | 監査証明業務に基づく報酬(百万円) | 非監査業務に基づく報酬(百万円) | 監査証明業務に基づく報酬(百万円) | 非監査業務に基づく報酬(百万円) |
| 提出会社 | 93 | 188 | 90 | 23 |
| 連結子会社 | 13 | | 13 | |
| 計 | 106 | 188 | 103 | 23 |

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社連結子会社であるToyo Tire Holdings of Americas Inc.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMG LLPに対して、207百万円の報酬を支払っております。また、同じく当社連結子会社であるToyo Tire Europe GmbHは、KPMG LLPに対して、14百万円の報酬を支払っております。

(当連結会計年度)

当社連結子会社であるToyo Tire Holdings of Americas Inc.は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているKPMG LLPに対して、211百万円の報酬を支払っております。また、同じく当社連結子会社であるToyo Tire Europe GmbHは、KPMG LLPに対して、15百万円の報酬を支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社は会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務として、会計・税務等に関するアドバイザー業務の対価を支払っております。

(当連結会計年度)

当社は会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務として、会計・税務等に関するアドバイザー業務の対価を支払っております。

【監査報酬の決定方針】

監査公認会計士等に対する監査報酬は、監査公認会計士等から年度監査計画の提示を受け、監査日程、人員数その他の内容について、双方協議の上、有効性及び効率性等を総合的に勘案して、監査役会の同意を得た後に決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2018年1月1日から2018年12月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2018年1月1日から2018年12月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、公益財団法人財務会計基準機構へ加入することにより会計基準等の内容を適切に把握し、また同機構が開催するセミナー等を中心とした各種講習等に参加することにより、各種法令、会計基準等の変更等について適確に対応することができる体制を整備しております。

また、将来の指定国際会計基準の適用に備え、IFRSプロジェクトを組成し、同基準の知識習得、日本基準とのギャップ分析、導入における影響分析等の取組みを実施しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2017年12月31日) | 当連結会計年度 (2018年12月31日) |
|-------------------|--------------------------|--------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 28,268 | 31,385 |
| 受取手形及び売掛金 | 4 79,371 | 4 81,593 |
| 商品及び製品 | 54,312 | 58,053 |
| 仕掛品 | 3,012 | 2,940 |
| 原材料及び貯蔵品 | 13,067 | 13,993 |
| 繰延税金資産 | 8,952 | 6,394 |
| その他 | 17,902 | 15,220 |
| 貸倒引当金 | 537 | 408 |
| 流動資産合計 | 204,349 | 209,174 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 107,943 | 104,954 |
| 減価償却累計額 | 50,476 | 50,768 |
| 建物及び構築物(純額) | 57,466 | 54,185 |
| 機械装置及び運搬具 | 312,612 | 312,012 |
| 減価償却累計額 | 212,088 | 222,286 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 100,524 | 89,726 |
| 工具、器具及び備品 | 75,820 | 74,073 |
| 減価償却累計額 | 66,429 | 65,074 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 9,390 | 8,999 |
| 土地 | 20,009 | 19,783 |
| リース資産 | 972 | 1,406 |
| 減価償却累計額 | 652 | 678 |
| リース資産(純額) | 320 | 728 |
| 建設仮勘定 | 4,285 | 16,879 |
| 有形固定資産合計 | 1 191,997 | 1 190,303 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 2,920 | 2,911 |
| のれん | 1,557 | 1,317 |
| その他 | 2,559 | 2,139 |
| 無形固定資産合計 | 7,037 | 6,368 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 2 56,399 | 2 47,268 |
| 長期貸付金 | 258 | 220 |
| 退職給付に係る資産 | 1,058 | 935 |
| 繰延税金資産 | 3,163 | 6,638 |
| その他 | 2 9,776 | 2 8,577 |
| 貸倒引当金 | 164 | 105 |
| 投資その他の資産合計 | 70,492 | 63,535 |
| 固定資産合計 | 269,526 | 260,207 |
| 資産合計 | 473,876 | 469,381 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2017年12月31日) | 当連結会計年度 (2018年12月31日) |
|----------------------|--------------------------|--------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 4 62,589 | 59,576 |
| コマーシャル・ペーパー | 2,000 | 14,000 |
| 短期借入金 | 5 36,490 | 5 35,137 |
| 1年内償還予定の社債 | 5,000 | |
| 未払金 | 21,067 | 22,499 |
| 未払法人税等 | 1,424 | 1,257 |
| 役員賞与引当金 | 55 | 81 |
| 返品調整引当金 | 242 | 218 |
| 製品補償引当金 | 21,000 | 15,946 |
| その他 | 22,537 | 25,779 |
| 流動負債合計 | 172,407 | 174,497 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 5 76,130 | 5 87,459 |
| 役員退職慰労引当金 | 10 | 11 |
| 環境対策引当金 | 305 | 274 |
| 製品補償引当金 | 42,100 | 29,592 |
| 退職給付に係る負債 | 6,702 | 7,768 |
| 繰延税金負債 | 11,023 | 10,788 |
| その他 | 1,381 | 1,738 |
| 固定負債合計 | 137,653 | 137,632 |
| 負債合計 | 310,061 | 312,130 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 30,484 | 30,484 |
| 資本剰余金 | 28,507 | 28,507 |
| 利益剰余金 | 63,041 | 67,880 |
| 自己株式 | 149 | 152 |
| 株主資本合計 | 121,883 | 126,720 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 27,555 | 21,278 |
| 繰延ヘッジ損益 | 10 | 9 |
| 為替換算調整勘定 | 7,974 | 3,848 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 1,676 | 883 |
| その他の包括利益累計額合計 | 37,195 | 26,018 |
| 非支配株主持分 | 4,735 | 4,511 |
| 純資産合計 | 163,815 | 157,251 |
| 負債純資産合計 | 473,876 | 469,381 |

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 2017年 1月 1日 至 2017年12月31日) | | 当連結会計年度 (自 2018年 1月 1日 至 2018年12月31日) | |
|-----------------|---|---------|---|---------|
| 売上高 | | 404,999 | | 393,220 |
| 売上原価 | 1,3 | 268,017 | 1,3 | 259,050 |
| 売上総利益 | | 136,982 | | 134,169 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,3 | 91,674 | 2,3 | 91,779 |
| 営業利益 | | 45,308 | | 42,390 |
| 営業外収益 | | | | |
| 受取利息 | | 458 | | 415 |
| 受取配当金 | | 1,482 | | 1,616 |
| 持分法による投資利益 | | 186 | | 194 |
| 受取賃貸料 | | 163 | | 265 |
| その他 | | 1,012 | | 1,293 |
| 営業外収益合計 | | 3,303 | | 3,785 |
| 営業外費用 | | | | |
| 支払利息 | | 2,630 | | 2,600 |
| 為替差損 | | 892 | | 2,079 |
| 債権流動化費用 | | 179 | | 300 |
| その他 | | 4,742 | | 2,815 |
| 営業外費用合計 | | 8,444 | | 7,796 |
| 経常利益 | | 40,167 | | 38,379 |
| 特別利益 | | | | |
| 固定資産売却益 | 4 | 2,534 | | |
| 投資有価証券売却益 | | 219 | | 378 |
| 事業譲渡益 | 5 | 4,267 | | |
| 特別利益合計 | | 7,022 | | 378 |
| 特別損失 | | | | |
| 固定資産除却損 | | 724 | | 578 |
| 減損損失 | 6 | 1,050 | 6 | 3,583 |
| 製品補償対策費 | 7 | 4,945 | 7 | 7,289 |
| 製品補償引当金繰入額 | 7 | 13,691 | 7 | 10,239 |
| 独禁法関連損失 | 8 | 5,244 | | |
| 特別損失合計 | | 25,657 | | 21,691 |
| 税金等調整前当期純利益 | | 21,532 | | 17,067 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 3,535 | | 3,809 |
| 法人税等調整額 | | 1,706 | | 2,084 |
| 法人税等合計 | | 5,241 | | 5,894 |
| 当期純利益 | | 16,291 | | 11,173 |
| 非支配株主に帰属する当期純利益 | | 814 | | 619 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 15,476 | | 10,553 |

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
|------------------|---|---|
| 当期純利益 | 16,291 | 11,173 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 5,119 | 6,277 |
| 繰延ヘッジ損益 | 109 | 20 |
| 為替換算調整勘定 | 1,252 | 4,492 |
| 退職給付に係る調整額 | 1,385 | 757 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 68 | 152 |
| その他の包括利益合計 | 1 7,935 | 1 11,660 |
| 包括利益 | 24,226 | 487 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る包括利益 | 23,222 | 624 |
| 非支配株主に係る包括利益 | 1,004 | 137 |

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

(単位：百万円)

| | 株主資本 | | | | |
|-------------------------|--------|--------|--------|------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 30,484 | 28,507 | 53,279 | 143 | 112,128 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | 5,714 | | 5,714 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | | 15,476 | | 15,476 |
| 自己株式の取得 | | | | 6 | 6 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額(純額) | | | | | |
| 当期変動額合計 | | | 9,761 | 6 | 9,755 |
| 当期末残高 | 30,484 | 28,507 | 63,041 | 149 | 121,883 |

| | その他の包括利益累計額 | | | | | 非支配株主持分 | 純資産合計 |
|-------------------------|------------------|---------|--------------|------------------|-------------------|---------|---------|
| | その他有価証券 評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | 為替換算調整勘 定 | 退職給付に係る 調整累計額 | その他の包括利 益累計額合計 | | |
| 当期首残高 | 22,435 | 119 | 6,843 | 290 | 29,450 | 4,043 | 145,621 |
| 当期変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | 5,714 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | | | | | | 15,476 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | 6 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額(純額) | 5,119 | 109 | 1,130 | 1,385 | 7,745 | 692 | 8,438 |
| 当期変動額合計 | 5,119 | 109 | 1,130 | 1,385 | 7,745 | 692 | 18,193 |
| 当期末残高 | 27,555 | 10 | 7,974 | 1,676 | 37,195 | 4,735 | 163,815 |

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

(単位：百万円)

| | 株主資本 | | | | |
|-------------------------|--------|--------|--------|------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 30,484 | 28,507 | 63,041 | 149 | 121,883 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | 5,714 | | 5,714 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | | 10,553 | | 10,553 |
| 自己株式の取得 | | | | 2 | 2 |
| 自己株式の処分 | | 0 | | 0 | 0 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額(純額) | | | | | |
| 当期変動額合計 | | 0 | 4,839 | 2 | 4,837 |
| 当期末残高 | 30,484 | 28,507 | 67,880 | 152 | 126,720 |

| | その他の包括利益累計額 | | | | | 非支配株主持分 | 純資産合計 |
|-------------------------|------------------|---------|--------------|------------------|-------------------|---------|---------|
| | その他有価証券 評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | 為替換算調整勘 定 | 退職給付に係る 調整累計額 | その他の包括利 益累計額合計 | | |
| 当期首残高 | 27,555 | 10 | 7,974 | 1,676 | 37,195 | 4,735 | 163,815 |
| 当期変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | 5,714 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | | | | | | | 10,553 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | 2 |
| 自己株式の処分 | | | | | | | 0 |
| 株主資本以外の項目の 当期変動額(純額) | 6,277 | 20 | 4,126 | 793 | 11,176 | 223 | 11,400 |
| 当期変動額合計 | 6,277 | 20 | 4,126 | 793 | 11,176 | 223 | 6,563 |
| 当期末残高 | 21,278 | 9 | 3,848 | 883 | 26,018 | 4,511 | 157,251 |

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前当期純利益 | 21,532 | 17,067 |
| 減価償却費 | 25,538 | 25,795 |
| 退職給付に係る負債の増減額（は減少） | 976 | 1,064 |
| 受取利息及び受取配当金 | 1,941 | 2,032 |
| 支払利息 | 2,630 | 2,600 |
| 為替差損益（は益） | 50 | 623 |
| 持分法による投資損益（は益） | 186 | 194 |
| 固定資産売却損益（は益） | 2,534 | |
| 投資有価証券売却損益（は益） | 219 | 378 |
| 事業譲渡損益（は益） | 4,267 | |
| 固定資産除却損 | 724 | 578 |
| 減損損失 | 1,050 | 3,583 |
| 製品補償対策費 | 4,945 | 7,289 |
| 製品補償引当金繰入額 | 13,691 | 10,239 |
| 独禁法関連損失 | 5,244 | |
| 売上債権の増減額（は増加） | 1,115 | 4,165 |
| たな卸資産の増減額（は増加） | 6,836 | 7,221 |
| 仕入債務の増減額（は減少） | 1,950 | 774 |
| その他 | 1,231 | 3,191 |
| 小計 | 57,947 | 57,267 |
| 利息及び配当金の受取額 | 1,916 | 2,167 |
| 利息の支払額 | 2,759 | 2,746 |
| 製品補償関連支払額 | 33,250 | 34,362 |
| 独禁法関連支払額 | 5,244 | |
| 法人税等の支払額 | 5,191 | 4,363 |
| 法人税等の還付額 | 12 | 1,101 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 13,430 | 19,063 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | 20,888 | 27,360 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 3,434 | 181 |
| 無形固定資産の取得による支出 | 1,019 | 1,251 |
| 無形固定資産の売却による収入 | 5 | 1 |
| 投資有価証券の取得による支出 | 18 | 269 |
| 投資有価証券の売却及び償還による収入 | 222 | 794 |
| 事業譲渡による収入 | 2 7,615 | 2 120 |
| その他 | 15 | 644 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 10,633 | 28,428 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
|-------------------------|---|---|
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額（は減少） | 913 | 5,049 |
| コマーシャル・ペーパーの純増減額（は減少） | 2,000 | 12,000 |
| 長期借入れによる収入 | 22,560 | 31,068 |
| 長期借入金の返済による支出 | 28,370 | 13,931 |
| 社債の償還による支出 | 5,000 | 5,000 |
| 配当金の支払額 | 5,714 | 5,714 |
| 非支配株主への配当金の支払額 | 279 | 361 |
| その他 | 377 | 182 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 13,513 | 12,829 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 963 | 884 |
| 現金及び現金同等物の増減額（は減少） | 9,752 | 2,580 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 37,639 | 27,887 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1 27,887 | 1 30,467 |

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 41社

連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しているため、省略しております。

新たに連結子会社となった会社 1社

会社の名称及び新規連結の理由

(株)ティ・ティ・エム 事業譲渡に伴う継承会社として新規設立したことによる

連結の範囲から除外された会社 3社

会社の名称及び新規連結の理由

(株)ティ・ティ・エム 事業譲渡に伴う持分法適用会社への変更による

(株)エフ・シー・シー 事業譲渡に伴い保有株式の全部を売却したことによる

Toyo Tire Mexico LLC 清算終了による

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社

Silverstone Tyreplus Pty Ltd

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社はその合計の総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金（持分に見合う額）等のいずれもが小規模であり、重要性がないため連結範囲から除外しております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 4社

主要な会社等の名称

正東機械(昆山)有限公司

新たに持分法適用会社となった会社 1社

会社の名称及び新規持分法適用の理由

(株)ティ・ティ・エム 事業譲渡に伴う連結子会社からの変更による

(2) 持分法を適用していない非連結子会社（Silverstone Tyreplus Pty Ltdほか）及び関連会社（南九州トーヨータイヤ(株)ほか）は、いずれも当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、全体として重要性がないため持分法を適用しておりません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定しております。）

時価のないもの 移動平均法による原価法

デリバティブ 時価法

たな卸資産 主として総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社

建物並びに工具、器具及び備品 定額法

構築物並びに機械装置及び運搬具 定率法

ただし、2016年4月1日以降に取得した構築物については、定額法

在外連結子会社

定額法

無形固定資産（リース資産を除く） 定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が2008年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 繰延資産の償却の方法

社債発行費 支出時に全額費用処理

(4) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権に対する貸倒損失に備えるものであり、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

役員賞与引当金

役員の賞与支給に備えるため、当連結会計年度末における支給見込額に基づき計上しております。

返品調整引当金

スノータイヤの返品による損失に備えるため、過去の返品実績率に基づく将来の返品損失見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

一部の連結子会社において、役員の退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

環境対策引当金

PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物処理等の環境対策費用の支出に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上しております。

製品補償引当金

当社製品に関する改修工事費用等の対策費用の発生に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上しております。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間（主として15年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間（主として15年）による定額法により、翌連結会計年度から費用処理しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

主として繰延ヘッジ処理を採用しております。為替予約については振当処理を、金利スワップについては、特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

| (ヘッジ手段) | (ヘッジ対象) |
|----------------|-----------|
| 為替予約・通貨オプション | 外貨建金銭債権債務 |
| 金利スワップ・金利オプション | 借入金及び社債 |

ヘッジ方針

当社の内部規定である「財務リスク管理規定」に基づき為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジしております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象について、相場変動額又はキャッシュ・フロー変動額を、ヘッジ期間全体にわたり比較し、有効性を評価しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんについては、投資効果の発現する期間において均等償却を行っております。ただし、金額が僅少なときは発生時の損益として処理しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書において資金の範囲に含めた現金及び現金同等物は、手許資金及び要求払預金のほか、取得日より3ヶ月以内に満期日が到来する定期性預金及び取得日より3ヶ月以内に償還日が到来する容易に換金可能で、かつ価値変動について僅少なリスクしか負わない短期投資からなっております。

(9) 消費税等の会計処理

税抜方式によっており、控除対象外消費税等は、発生連結会計年度の費用として処理しております。

(未適用の会計基準等)

当社及び国内連結子会社

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日)

「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年12月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

在外連結子会社

2018年12月31日までに公表されている主な会計基準等の新設又は改定について、適用していないものは以下のとおりです。

なお、当該会計基準等の適用による影響額は、評価中であります。

| 会計基準等の名称 | 概要 | 適用予定日 |
|--|------------------|-----------------|
| 「顧客との契約から生じる収益」 (米国会計基準ASU 第2014-09号) | 収益の認識に関する会計処理を改訂 | 2019年12月期より適用予定 |
| 「リース」 (IFRS第16号) | リースに関する会計処理を改訂 | 2019年12月期より適用予定 |
| 「リース」 (米国会計基準 ASU 第2016-02号) | リースに関する会計処理を改訂 | 2020年12月期より適用予定 |

(表示方法の変更)

連結損益計算書関係

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外費用」の「資金調達費用」は、金額の重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」に表示していた「資金調達費用」700百万円、「その他」4,042百万円は、「その他」4,742百万円として組み替えております。

(追加情報)

在外連結子会社は、IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」(2014年5月公表、2016年4月改訂)を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

| | 前連結会計年度 (2017年12月31日) | 当連結会計年度 (2018年12月31日) |
|---|--------------------------|--------------------------|
| 工場抵当法による担保物件 建物及び構築物、機械装置、 工具、器具及び備品、土地 | 計16,303百万円 | 計16,231百万円 |
| | 上記担保資産に対応する 債務はありません。 | 上記担保資産に対応する 債務はありません。 |

2 非連結子会社及び関連会社に対する株式等

投資その他の資産

| | 前連結会計年度 (2017年12月31日) | 当連結会計年度 (2018年12月31日) |
|------------|--------------------------|--------------------------|
| 投資有価証券(株式) | 894百万円 | 937百万円 |
| その他(出資金) | 1,309百万円 | 1,253百万円 |

3 偶発債務

(1) 当社は、建築基準法第37条第2号の指定建築材料に係る国土交通大臣認定を受け、当社自身により、又は当社の連結子会社である東洋ゴム化工品株式会社を通じて、建築用免震積層ゴムを製造・販売していましたが、2015年12月期において、出荷していた製品の一部（納入物件数154棟、納入基数2,907基）が国土交通大臣認定の性能評価基準に適合していない等の事実が判明いたしました。

当社は、原則として当該製品について、当初の設計段階において求められた性能評価基準に適合する製品へと交換・改修を進める方針です。

当該事象により、金額を合理的に見積もることができる改修工事費用等については製品補償引当金を計上しております。

なお、改修工事費用について、既に見積書等により金額が判明している物件（130棟、納入基数2,626基）については個別引当を行い、その他の物件については社内の査定結果等に基づいて個別引当を行っております。ただし、物件毎の改修工事については個別性が高いことから、今後の改修工事費用算定の前提条件が変更された場合等、追加で判明する改修工事費用の金額が既引当額を超過する可能性があります。また、営業補償や遅延損害金等の賠償金の中には、現時点では金額を合理的に見積もることが困難なものがあります。

したがって、翌期以降の進行状況等によっては、追加で製品補償引当金を計上すること等により当社の連結業績に影響が生じる可能性があります。

(2) 当社は、2013年11月26日（米国時間）、米国司法省との間で、自動車用防振ゴム及び等速ジョイントブーツの販売に係る米国独占禁止法違反に関して、罰金120百万米ドルを支払うこと等を内容とする司法取引に合意し、2014年2月6日（米国時間）、裁判所より同金額の支払を命ずる判決の言渡しを受け、これを支払いました。

本件に関連して、米国及びカナダにおいて、集団訴訟が当社及び子会社に対して提起されており、その結果は当社の連結業績に影響を及ぼす可能性があります。現段階において、その結果を合理的に予測することは困難であります。

4 期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高から除かれております。

| | 前連結会計年度 (2017年12月31日) | 当連結会計年度 (2018年12月31日) |
|------|--------------------------|--------------------------|
| 受取手形 | 391百万円 | 187百万円 |
| 支払手形 | 2百万円 | |

5 財務制限条項

前連結会計年度（2017年12月31日）

当社が締結しているシンジケート・ローン契約には、各年度の決算期及び第2四半期の末日において、連結貸借対照表の株主資本合計の金額を、前年同期比75%以上、かつ連結貸借対照表で1,014億円以上を維持すること、及び各年度の決算期における経常損益が連結損益計算書において2期連続して損失とならないようにするという財務制限条項が付されております。（契約ごとに条項は異なりますが、主なものを記載しております。）

当連結会計年度（2018年12月31日）

当社が締結しているシンジケート・ローン契約には、各年度の決算期及び第2四半期の末日において、連結貸借対照表の株主資本合計の金額を、前年同期比75%以上、かつ連結貸借対照表で1,014億円以上を維持すること、及び各年度の決算期における経常損益が連結損益計算書において2期連続して損失とならないようにするという財務制限条項が付されております。（契約ごとに条項は異なりますが、主なものを記載しております。）

(連結損益計算書関係)

1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額

| | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
|------|---|---|
| 売上原価 | 289百万円 | 202百万円 |

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
|--------------|---|---|
| 給料及び手当 | 24,753百万円 | 23,886百万円 |
| 運賃及び荷造費 | 23,595百万円 | 24,191百万円 |
| 広告宣伝費 | 7,992百万円 | 8,777百万円 |
| 減価償却費 | 4,243百万円 | 4,284百万円 |
| 退職給付費用 | 1,051百万円 | 840百万円 |
| 役員賞与引当金繰入額 | 55百万円 | 81百万円 |
| 貸倒引当金繰入額 | 70百万円 | 0百万円 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 1百万円 | 1百万円 |

3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費

| | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
|--|---|---|
| | 10,943百万円 | 10,878百万円 |

4 固定資産売却益

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

| | |
|-----------|----------|
| 建物及び構築物 | 848百万円 |
| 機械装置及び運搬具 | 36百万円 |
| 工具、器具及び備品 | 2百万円 |
| 土地 | 1,646百万円 |
| 合計 | 2,534百万円 |

5 事業譲渡益

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

事業譲渡益は、当社ダイバーテック事業セグメントの化工品事業（建築用免震ゴム事業を除く）及び硬質ウレタン事業を譲渡したことに伴うものであり、その内訳は次のとおりであります。

| | |
|---------------------------|----------|
| 関係会社株式売却益及び 関係会社出資金売却益 | 5,912百万円 |
| 固定資産売却損益 | 10百万円 |
| 工場の改修費用 | 472百万円 |
| 従業員退職関係費用 | 1,182百万円 |
| 合計 | 4,267百万円 |

6 減損損失

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

当社グループは、内部管理上採用している事業区分を基礎として事業用資産をグルーピングしており、賃貸資産、売却等処分の意思決定がされた資産及び将来の使用が見込まれていない遊休資産は、個々の物件単位でグルーピングを行っております。

| 場所 | 用途 | 種類 | 金額(百万円) |
|--------------|-----------|----------|---------|
| 兵庫県加古郡 | 売却予定資産 | 土地・建物 | 559 |
| アメリカ・ケンタッキー州 | 自動車部品製造設備 | 機械装置・建物他 | 414 |
| マレーシア・ペラ州 | 遊休資産 | 機械装置 | 75 |
| 合計 | | | 1,050 |

兵庫県加古郡における売却予定資産については、帳簿価額に対して市場価格が下落しており、今後の使用可能見込みが売却予定となっているため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。その内訳は、土地367百万円、建物192百万円であります。なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、契約に基づく売却予定価額により算定しております。

アメリカ・ケンタッキー州における自動車部品製造設備については、自動車部品の製造を行っている連結子会社において、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、減損の兆候が認められたため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。その内訳は、機械装置212百万円、建物及び構築物196百万円、工具、器具及び備品2百万円、建設仮勘定2百万円であります。なお、当資産グループの回収可能価額は米国会計基準に基づく公正価値により測定しており、当該公正価値は第三者の評価機関により算定しております。

マレーシア・ペラ州における遊休資産については、タイヤの製造を行っている連結子会社が所有する機械装置の今後の使用可能見込みが未確定となり、事業用資産から遊休資産に用途変更したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、備忘価額をもって評価しております。

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

当社グループは、内部管理上採用している事業区分を基礎として事業用資産をグルーピングしており、賃貸資産、売却等処分の意思決定がされた資産及び将来の使用が見込まれていない遊休資産は、個々の物件単位でグルーピングを行っております。

| 場所 | 用途 | 種類 | 金額(百万円) |
|--------------|-----------|-------------------------|---------|
| 三重県員弁郡他 | 自動車部品製造設備 | 機械装置及び運搬具 工具、器具及び備品他 | 3,250 |
| アメリカ・ケンタッキー州 | 自動車部品製造設備 | 機械装置及び運搬具 建物及び構築物他 | 333 |
| 合計 | | | 3,583 |

三重県員弁郡他における自動車部品製造設備については、自動車部品の製造及び販売を行っている当社及び国内子会社において、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、減損の兆候が認められたため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。その内訳は、機械装置及び運搬具2,159百万円、工具、器具及び備品445百万円、建設仮勘定244百万円、建物及び構築物120百万円、土地77百万円、ソフトウェア59百万円、その他144百万円であります。なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地、建物については不動産鑑定評価等を基準とした価格、機械装置及び運搬具、工具、器具及び備品他については備忘価額により評価しております。

アメリカ・ケンタッキー州における自動車部品製造設備については、自動車部品の製造を行っている連結子会社において、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、減損の兆候が認められたため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。その内訳は、機械装置及び運搬具155百万円、建設仮勘定69百万円、建物及び構築物60百万円、工具、器具及び備品46百万円であります。なお、当資産グループの回収可能価額は米国会計基準に基づく公正価値により測定しており、当該公正価値は第三者の評価機関により算定しております。

7 製品補償対策費及び製品補償引当金繰入額

当社は、建築基準法第37条第2号の指定建築材料に係る国土交通大臣認定を受け、当社自身により、又は当社の連結子会社である東洋ゴム化工品株式会社を通じて、建築用免震積層ゴムを製造・販売していましたが、2015年12月期において、出荷していた製品の一部が国土交通大臣認定の性能評価基準に適合していないとの事実及び建築用免震積層ゴムの国土交通大臣認定取得に際し、その一部に技術的根拠のない申請があった事実が判明しました。

当連結会計年度に発生した当該事象に係る改修工事費用等の対策費用を製品補償対策費として、翌年度以降の改修工事費用等の対策費用の見積額を製品補償引当金繰入額として特別損失に計上しております。

8 独禁法関連損失

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

当社は、2013年11月26日(米国時間)、米国司法省との間で、自動車用防振ゴム及び等速ジョイントブーツの販売に係る米国独占禁止法違反に関して、司法取引に合意しております。本件に関連して、当社及び当社の米国の一部子会社は、米国ミシガン州東部地区連邦地方裁判所において、損害賠償等を求める集団民事訴訟を提起されておりましたが、原告の一部である自動車ディーラー及び最終購入者と協議を進めた結果、和解合意に至りました。当該和解金額を独禁法関連損失として特別損失に計上しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

| | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
|------------------|---|---|
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 当期発生額 | 7,409百万円 | 8,679百万円 |
| 組替調整額 | 33百万円 | 363百万円 |
| 税効果調整前 | 7,375百万円 | 9,043百万円 |
| 税効果額 | 2,256百万円 | 2,766百万円 |
| その他有価証券評価差額金 | 5,119百万円 | 6,277百万円 |
| 繰延ヘッジ損益 | | |
| 当期発生額 | 157百万円 | 28百万円 |
| 税効果調整前 | 157百万円 | 28百万円 |
| 税効果額 | 48百万円 | 8百万円 |
| 繰延ヘッジ損益 | 109百万円 | 20百万円 |
| 為替換算調整勘定 | | |
| 当期発生額 | 1,373百万円 | 4,492百万円 |
| 組替調整額 | 120百万円 | 0百万円 |
| 為替換算調整勘定 | 1,252百万円 | 4,492百万円 |
| 退職給付に係る調整額 | | |
| 当期発生額 | 1,625百万円 | 837百万円 |
| 組替調整額 | 361百万円 | 249百万円 |
| 税効果調整前 | 1,987百万円 | 1,087百万円 |
| 税効果額 | 601百万円 | 329百万円 |
| 退職給付に係る調整額 | 1,385百万円 | 757百万円 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | | |
| 当期発生額 | 68百万円 | 168百万円 |
| 税効果額 | | 16百万円 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 68百万円 | 152百万円 |
| その他の包括利益合計 | 7,935百万円 | 11,660百万円 |

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首 (株) | 増加 (株) | 減少 (株) | 当連結会計年度末 (株) |
|---------------|------------------|-----------|-----------|-----------------|
| 発行済株式 普通株式 | 127,179,073 | | | 127,179,073 |
| 自己株式 普通株式 | 182,497 | 3,153 | | 185,650 |

(変動事由の概要)

自己株式増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 3,153株

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|-------------|------------|
| 2017年3月30日 定時株主総会 | 普通株式 | 3,174 | 25 | 2016年12月31日 | 2017年3月31日 |
| 2017年8月10日 取締役会 | 普通株式 | 2,539 | 20 | 2017年6月30日 | 2017年9月13日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 配当の原資 | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-----------------|-------|-----------------|-------------|------------|
| 2018年3月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 3,174 | 利益剰余金 | 25 | 2017年12月31日 | 2018年3月30日 |

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| 株式の種類 | 当連結会計年度期首 (株) | 増加 (株) | 減少 (株) | 当連結会計年度末 (株) |
|---------------|------------------|-----------|-----------|-----------------|
| 発行済株式 普通株式 | 127,179,073 | | | 127,179,073 |
| 自己株式 普通株式 | 185,650 | 1,201 | 82 | 186,769 |

(変動事由の概要)

自己株式増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 1,201株

自己株式減少数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買増請求による減少 82株

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|-------------|------------|
| 2018年3月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 3,174 | 25 | 2017年12月31日 | 2018年3月30日 |
| 2018年8月10日 取締役会 | 普通株式 | 2,539 | 20 | 2018年6月30日 | 2018年9月12日 |

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 配当の原資 | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|-----------------|-------|-----------------|-------------|------------|
| 2019年3月28日 定時株主総会 | 普通株式 | 3,174 | 利益剰余金 | 25 | 2018年12月31日 | 2019年3月29日 |

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

| | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
|------------------|---|---|
| 現金及び預金勘定 | 28,268百万円 | 31,385百万円 |
| 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 | 381百万円 | 917百万円 |
| 現金及び現金同等物 | 27,887百万円 | 30,467百万円 |

2 株式及び出資金の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

株式及び出資金の売却により、ニッタ化工品(株)、Nitta Chemical Products (Thailand) Ltd.、東洋護謨化工(香港)有限公司、無錫東洋美峰橡(株)製品制造有限公司、(株)ソフランウイズ、TOYO SOFLAN WIZ (THAILAND) CO.,LTD.が連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びに売却価額と事業譲渡による収入は次のとおりです。

| | |
|---------------------------|-----------|
| 流動資産 | 14,367百万円 |
| 固定資産 | 2,501百万円 |
| 流動負債 | 10,642百万円 |
| 固定負債 | 795百万円 |
| その他有価証券評価差額金 | 30百万円 |
| 為替換算調整勘定 | 120百万円 |
| 非支配株主持分 | 47百万円 |
| その他 | 5百万円 |
| 関係会社株式売却益及び 関係会社出資金売却益 | 5,912百万円 |
| 売却価額 | 11,138百万円 |
| 未収入金 | 101百万円 |
| 現金及び現金同等物 | 3,421百万円 |
| 差引：事業譲渡による収入 | 7,615百万円 |

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

株式の売却により、(株)エフ・シー・シー、(株)ティ・ティ・エムが連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びに売却価額と事業譲渡による収入は次のとおりです。

| | |
|--------------|--------|
| 流動資産 | 661百万円 |
| 固定資産 | 652百万円 |
| 流動負債 | 358百万円 |
| 固定負債 | 538百万円 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 101百万円 |
| 非支配株主持分 | 95百万円 |
| その他 | 8百万円 |
| 営業外費用 その他 | 0百万円 |
| <hr/> | |
| 売却価額 | 431百万円 |
| 未収入金 | 34百万円 |
| 現金及び現金同等物 | 276百万円 |
| <hr/> | |
| 差引：事業譲渡による収入 | 120百万円 |
| <hr/> | |

(リース取引関係)

1 リース取引開始日が2008年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

前連結会計年度(2017年12月31日)

| | 取得価額相当額 | 減価償却累計額相当額 | 期末残高相当額 |
|----|---------|------------|---------|
| 建物 | 608百万円 | 379百万円 | 228百万円 |
| 合計 | 608百万円 | 379百万円 | 228百万円 |

当連結会計年度(2018年12月31日)

| | 取得価額相当額 | 減価償却累計額相当額 | 期末残高相当額 |
|----|---------|------------|---------|
| 建物 | 608百万円 | 410百万円 | 197百万円 |
| 合計 | 608百万円 | 410百万円 | 197百万円 |

(2) 未経過リース料期末残高相当額

| | 前連結会計年度 (2017年12月31日) | 当連結会計年度 (2018年12月31日) |
|-----|--------------------------|--------------------------|
| 一年内 | 30百万円 | 30百万円 |
| 一年超 | 197百万円 | 167百万円 |
| 合計 | 228百万円 | 197百万円 |

なお、取得価額相当額及び未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いと見做すため、支払利子込み法により算定しております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

| | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
|----------|---|---|
| 支払リース料 | 30百万円 | 30百万円 |
| 減価償却費相当額 | 30百万円 | 30百万円 |

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

| | 前連結会計年度 (2017年12月31日) | 当連結会計年度 (2018年12月31日) |
|-----|--------------------------|--------------------------|
| 一年内 | 2,166百万円 | 2,107百万円 |
| 一年超 | 5,070百万円 | 3,532百万円 |
| 合計 | 7,236百万円 | 5,640百万円 |

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入や社債発行）を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、グローバルに事業を展開していることから生じている外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、原則として外貨建ての営業債務をネットしたポジションについて先物為替予約を利用してヘッジしております。投資有価証券は、主に取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。借入金、社債及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであります。このうち一部は、変動金利であることによる金利の変動リスク、また、外貨建ての借入金に係る為替変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引を利用してヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引、借入金に係る支払金利や為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引及び通貨スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジ有効性評価の方法等については、前述の「会計方針に関する事項」における「重要なヘッジ会計の方法」に記載しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、債権管理規定に従い、営業債権及び長期貸付金について、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の債権管理規定に準じて、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、信用度の高い金融機関とのみ取引を行っております。

当期の連結決算日現在における最大信用リスク額は、信用リスクに晒される金融資産の貸借対照表価額により表わされております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての営業債権に係る為替の変動リスクを抑制するために、原則として先物為替予約を、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。また、一部の連結子会社は、外貨建ての借入金に係る支払金利及び為替の変動リスクを抑制するために、通貨スワップ取引を利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握しております。

デリバティブ取引については、当社の内部規定である「財務リスク管理規定」に基づき、取締役会で承認された基本方針に従い財務部が取引を行い、記帳及び契約先と残高照合等を行っております。月次の取引実績は、財務担当役員及び取締役会に報告しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告等に基づき財務部が適時に資金繰計画を作成・更新することなどにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結決算日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注）2 参照）。

前連結会計年度(2017年12月31日)

| | 連結貸借対照表 計上額(百万円) | 時価(百万円) | 差額(百万円) |
|--------------------------|---------------------|---------|---------|
| (1) 現金及び預金 | 28,268 | 28,268 | |
| (2) 受取手形及び売掛金 | 79,371 | 79,371 | |
| (3) 投資有価証券 | 54,999 | 54,999 | |
| 資産計 | 162,638 | 162,638 | |
| (1) 支払手形及び買掛金 | 62,589 | 62,589 | |
| (2) コマーシャル・ペーパー | 2,000 | 2,000 | |
| (3) 短期借入金 | 22,148 | 22,148 | |
| (4) 社債（一年内償還予定社債を含む） | 5,000 | 4,996 | 3 |
| (5) 長期借入金（一年内返済長期借入金を含む） | 90,472 | 92,465 | 1,992 |
| 負債計 | 182,210 | 184,199 | 1,989 |
| デリバティブ取引(1) | 2,531 | 2,531 | |

当連結会計年度(2018年12月31日)

| | 連結貸借対照表 計上額(百万円) | 時価(百万円) | 差額(百万円) |
|--------------------------|---------------------|---------|---------|
| (1) 現金及び預金 | 31,385 | 31,385 | |
| (2) 受取手形及び売掛金 | 81,593 | 81,593 | |
| (3) 投資有価証券 | 45,870 | 45,870 | |
| 資産計 | 158,849 | 158,849 | |
| (1) 支払手形及び買掛金 | 59,576 | 59,576 | |
| (2) コマーシャル・ペーパー | 14,000 | 14,000 | |
| (3) 短期借入金 | 16,912 | 16,912 | |
| (4) 長期借入金（一年内返済長期借入金を含む） | 105,685 | 105,064 | 620 |
| 負債計 | 196,173 | 195,552 | 620 |
| デリバティブ取引(1) | 1,814 | 1,814 | |

(1) 金利スワップの特例処理及び外貨建金銭債権に振り当てたデリバティブ取引については、ヘッジ対象と一体として取扱い、当該デリバティブ取引の時価をヘッジ対象の時価に含めて記載しております。これら以外のデリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

〔資産〕

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記参照。

〔負債〕

(1) 支払手形及び買掛金、(2) コマーシャル・ペーパー、並びに(3) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 社債（一年内償還予定社債を含む）

社債の時価について、取引先金融機関から提示された価格等によっております。

(5) 長期借入金（一年内返済長期借入金を含む）

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算出する方法によっております。また、金利スワップの特例処理を採用している長期借入金については、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

〔デリバティブ取引〕

「デリバティブ取引関係」注記参照。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

前連結会計年度(2017年12月31日)

| 区分 | 連結貸借対照表計上額(百万円) |
|--------|-----------------|
| 非上場株式等 | 1,400 |

当連結会計年度(2018年12月31日)

| 区分 | 連結貸借対照表計上額(百万円) |
|--------|-----------------|
| 非上場株式等 | 1,397 |

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2017年12月31日)

| | 1年以内 (百万円) | 1年超5年以内 (百万円) | 5年超10年以内 (百万円) | 10年超 (百万円) |
|-----------|---------------|------------------|-------------------|---------------|
| 受取手形及び売掛金 | 79,371 | | | |
| 合計 | 79,371 | | | |

当連結会計年度(2018年12月31日)

| | 1年以内 (百万円) | 1年超5年以内 (百万円) | 5年超10年以内 (百万円) | 10年超 (百万円) |
|-----------|---------------|------------------|-------------------|---------------|
| 受取手形及び売掛金 | 81,593 | | | |
| 合計 | 81,593 | | | |

(注) 4 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2017年12月31日)

| | 1年以内 (百万円) | 1年超 2年以内 (百万円) | 2年超 3年以内 (百万円) | 3年超 4年以内 (百万円) | 4年超 5年以内 (百万円) | 5年超 (百万円) |
|-------------|---------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------|
| 短期借入金 | 22,148 | | | | | |
| 社債 | 5,000 | | | | | |
| 長期借入金 | 14,342 | 16,020 | 28,426 | 7,401 | 4,084 | 20,197 |
| リース債務 | 144 | 94 | 43 | 31 | 17 | 10 |
| コマーシャル・ペーパー | 2,000 | | | | | |
| 合計 | 43,635 | 16,114 | 28,470 | 7,432 | 4,102 | 20,208 |

当連結会計年度(2018年12月31日)

| | 1年以内 (百万円) | 1年超 2年以内 (百万円) | 2年超 3年以内 (百万円) | 3年超 4年以内 (百万円) | 4年超 5年以内 (百万円) | 5年超 (百万円) |
|-------------|---------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------|
| 短期借入金 | 16,912 | | | | | |
| 長期借入金 | 18,225 | 31,864 | 11,332 | 8,099 | 16,164 | 20,000 |
| リース債務 | 161 | 133 | 107 | 94 | 71 | 162 |
| コマーシャル・ペーパー | 14,000 | | | | | |
| 合計 | 49,299 | 31,997 | 11,439 | 8,193 | 16,235 | 20,162 |

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2017年12月31日)

| 区分 | 連結貸借対照表 計上額(百万円) | 取得原価(百万円) | 差額(百万円) |
|----------------------------------|---------------------|-----------|---------|
| 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式 | 54,811 | 15,726 | 39,084 |
| 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式 | 187 | 210 | 23 |
| 合計 | 54,999 | 15,937 | 39,061 |

当連結会計年度(2018年12月31日)

| 区分 | 連結貸借対照表 計上額(百万円) | 取得原価(百万円) | 差額(百万円) |
|----------------------------------|---------------------|-----------|---------|
| 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式 | 45,780 | 15,704 | 30,075 |
| 連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式 | 89 | 131 | 41 |
| 合計 | 45,870 | 15,835 | 30,034 |

(注) 非上場株式等については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

| 区分 | 売却額(百万円) | 売却益の合計額 (百万円) | 売却損の合計額 (百万円) |
|----|----------|------------------|------------------|
| 株式 | 222 | 219 | - |
| 合計 | 222 | 219 | - |

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

| 区分 | 売却額(百万円) | 売却益の合計額 (百万円) | 売却損の合計額 (百万円) |
|----|----------|------------------|------------------|
| 株式 | 794 | 378 | - |
| 合計 | 794 | 378 | - |

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(2017年12月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

| 区分 | 種類 | 契約額等 (百万円) | 契約額等のうち 1年超 (百万円) | 時価 (百万円) | 評価損益 (百万円) |
|---------------|--------------------------|---------------|-------------------------|-------------|---------------|
| 市場取引 以外の取引 | 通貨スワップ取引 リンギット支払米ドル受取 | 11,356 | 7,627 | 2,546 | 1,705 |
| 合計 | | 11,356 | 7,627 | 2,546 | 1,705 |

(注) 時価の算定は、取引先金融機関から提示された価格等によっております。

(2) 金利関連

該当事項はありません

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

| ヘッジ会計の 方法 | デリバティブ 取引の種類等 | 主なヘッジ対象 | 契約額 (百万円) | 契約額のうち 1年超 (百万円) | 時価 (百万円) |
|----------------|------------------|---------|--------------|------------------------|-------------|
| 繰延ヘッジ処理 | 為替予約取引 売建 | 売掛金 | | | |
| | 米ドル | | 973 | | 6 |
| | ユーロ | | 280 | | 2 |
| | 加ドル | | 157 | | 3 |
| | 豪ドル | 94 | | 2 | |
| 為替予約等の 振当処理 | 為替予約取引 売建 | 売掛金 | | | |
| | 米ドル | | 168 | | (注) 2 |
| | ユーロ | | 278 | | (注) 2 |
| | 加ドル | | 245 | | (注) 2 |
| | 豪ドル | 128 | | (注) 2 | |
| 合計 | | | 2,326 | | 15 |

(注) 1 時価の算定は、取引先金融機関から提示された価格等によっております。

2 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金の時価に含めて記載しております。

(2) 金利関連

| ヘッジ会計の 方法 | デリバティブ 取引の種類等 | 主なヘッジ対象 | 契約額 (百万円) | 契約額のうち 1年超 (百万円) | 時価 (百万円) |
|-----------------|-----------------------|---------|--------------|------------------------|-------------|
| 金利スワップの 特例処理 | 金利スワップ取引 受取変動・支払固定 | 長期借入金 | 15,400 | 15,300 | (注) |
| 合計 | | | 15,400 | 15,300 | |

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(2018年12月31日)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

| 区分 | 種類 | 契約額等 (百万円) | 契約額等のうち 1年超 (百万円) | 時価 (百万円) | 評価損益 (百万円) |
|---------------|--------------------------|---------------|-------------------------|-------------|---------------|
| 市場取引 以外の取引 | 通貨スワップ取引 リンギット支払米ドル受取 | 7,492 | 3,829 | 1,800 | 664 |
| 合計 | | 7,492 | 3,829 | 1,800 | 664 |

(注) 時価の算定は、取引先金融機関から提示された価格等によっております。

(2) 金利関連

該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

| ヘッジ会計の 方法 | デリバティブ 取引の種類等 | 主なヘッジ対象 | 契約額 (百万円) | 契約額のうち 1年超 (百万円) | 時価 (百万円) |
|----------------|------------------|---------|--------------|------------------------|----------------|
| 繰延ヘッジ処理 | 為替予約取引 売建 | 売掛金 | | | |
| | 米ドル | | 1,233 | | 8 |
| | ユーロ | | 123 | | 0 |
| | 加ドル 豪ドル | | 166 266 | | 1 3 |
| 為替予約等の 振当処理 | 為替予約取引 売建 | 売掛金 | | | |
| | 米ドル | | 56 | | (注) 2 |
| | ユーロ | | 202 | | (注) 2 |
| | 加ドル 豪ドル | | 160 268 | | (注) 2 (注) 2 |
| 合計 | | | 2,479 | | 13 |

(注) 1 時価の算定は、取引先金融機関から提示された価格等によっております。

2 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている売掛金と一体として処理されているため、その時価は、当該売掛金の時価に含めて記載しております。

(2) 金利関連

| ヘッジ会計の 方法 | デリバティブ 取引の種類等 | 主なヘッジ対象 | 契約額 (百万円) | 契約額のうち 1年超 (百万円) | 時価 (百万円) |
|-----------------|-----------------------|---------|--------------|------------------------|-------------|
| 金利スワップの 特例処理 | 金利スワップ取引 受取変動・支払固定 | 長期借入金 | 15,300 | 15,200 | (注) |
| 合計 | | | 15,300 | 15,200 | |

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

確定給付企業年金制度（すべて積立型制度であります。）では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。

退職一時金制度（非積立型制度ではありますが、退職給付信託を設定した結果、積立型制度となっているものがあります。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、一部の連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2 確定給付制度（簡便法を適用した制度を含む。）

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

| | (百万円) | |
|--------------------|---|---|
| | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
| 退職給付債務の期首残高 | 31,960 | 22,763 |
| 勤務費用 | 1,653 | 1,407 |
| 利息費用 | 133 | 115 |
| 数理計算上の差異の発生額 | 871 | 545 |
| 退職給付の支払額 | 3,288 | 1,239 |
| 確定拠出年金制度への移行に伴う減少額 | 6,260 | |
| 連結除外による減少額 | 569 | 726 |
| その他 | 5 | 68 |
| 退職給付債務の期末残高 | 22,763 | 21,843 |

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

| | (百万円) | |
|--------------------|---|---|
| | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
| 年金資産の期首残高 | 22,343 | 17,118 |
| 期待運用収益 | 41 | 7 |
| 数理計算上の差異の発生額 | 753 | 1,383 |
| 事業主からの拠出額 | 216 | 56 |
| 退職給付の支払額 | 562 | 443 |
| 確定拠出年金制度への移行に伴う減少額 | 5,674 | |
| 連結除外による減少額 | | 344 |
| 年金資産の期末残高 | 17,118 | 15,010 |

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

| | (百万円) | |
|-----------------------|--------------------------|--------------------------|
| | 前連結会計年度 (2017年12月31日) | 当連結会計年度 (2018年12月31日) |
| 積立型制度の退職給付債務 | 18,808 | 18,042 |
| 年金資産 | 17,118 | 15,010 |
| | 1,689 | 3,032 |
| 非積立型制度の退職給付債務 | 3,954 | 3,801 |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 5,644 | 6,833 |
| 退職給付に係る負債 | 6,702 | 7,768 |
| 退職給付に係る資産 | 1,058 | 935 |
| 連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 5,644 | 6,833 |

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

| | (百万円) | |
|----------------------|---|---|
| | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
| 勤務費用 | 1,653 | 1,407 |
| 利息費用 | 133 | 115 |
| 期待運用収益 | 41 | 7 |
| 数理計算上の差異の費用処理額 | 368 | 248 |
| 過去勤務費用の費用処理額 | 7 | 0 |
| その他 | 5 | 6 |
| 確定給付制度に係る退職給付費用 | 2,101 | 1,259 |
| 確定拠出年金制度への移行に伴う損益(注) | 7 | |

(注) 営業外費用に計上しております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

| | (百万円) | |
|----------|---|---|
| | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
| 過去勤務費用 | 7 | 0 |
| 数理計算上の差異 | 1,994 | 1,086 |
| 合計 | 1,987 | 1,087 |

(注) 前連結会計年度における、過去勤務費用及び数理計算上の差異の金額には、確定給付企業年金制度から確定拠出年金制度への一部移行に伴う組替調整額(過去勤務費用 6百万円、数理計算上の差異452百万円)が含まれております。

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

| | (百万円) | |
|-------------|--------------------------|--------------------------|
| | 前連結会計年度 (2017年12月31日) | 当連結会計年度 (2018年12月31日) |
| 未認識過去勤務費用 | 1 | 1 |
| 未認識数理計算上の差異 | 2,406 | 1,319 |
| 合計 | 2,408 | 1,321 |

(注) 上記は当社及び連結子会社に関するものであり、退職給付に関する調整累計額には、上記のほか、持分法適用関連会社の未認識項目（持分相当額）が計上されております。

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (2017年12月31日) | 当連結会計年度 (2018年12月31日) |
|------|--------------------------|--------------------------|
| 株式 | 88% | 86% |
| 生保勘定 | 3% | 4% |
| 債券 | 4% | 5% |
| その他 | 5% | 5% |
| 合計 | 100% | 100% |

(注) 1 年金資産合計には、退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度85%、当連結会計年度83%含まれております。

2 生保勘定には、元本と利率が保証されている一般勘定と、元本と利率が保証されていない特別勘定が含まれます。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

| | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
|-----------|---|---|
| 割引率 | 主として0.6% | 主として0.7% |
| 長期期待運用収益率 | 主として1.0% | 主として0.0% |

3 確定拠出制度

当社及び一部連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度1,301百万円、当連結会計年度1,434百万円でありました。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | 前連結会計年度 (2017年12月31日) (百万円) | 当連結会計年度 (2018年12月31日) (百万円) |
|---------------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 繰延税金資産 | | |
| 未払賞与 | 703 | 718 |
| 未払経費 | 1,362 | 554 |
| 棚卸資産評価 | 156 | 150 |
| 未実現利益 | 3,167 | 2,866 |
| 減損損失 | 158 | 1,151 |
| 在外子会社の投資控除額等 | 3,824 | 4,268 |
| 退職給付に係る負債 | 1,946 | 2,064 |
| 退職給付株式信託損 | 1,415 | 1,529 |
| 製品補償引当金 | 19,344 | 13,925 |
| 繰越欠損金 | 4,810 | 7,912 |
| その他 | 3,936 | 3,814 |
| 繰延税金資産小計 | 40,825 | 38,955 |
| 評価性引当額 | 11,559 | 12,424 |
| 繰延税金資産合計 | 29,265 | 26,530 |
| 繰延税金負債 | | |
| 未実現損失 | 51 | 153 |
| 在外連結子会社の加速度償却 | 9,922 | 9,323 |
| その他有価証券評価差額金 | 12,120 | 9,370 |
| 関係会社の留保利益金 | 1,664 | 1,675 |
| その他 | 4,426 | 3,782 |
| 繰延税金負債合計 | 28,184 | 24,305 |
| 繰延税金資産(負債)の純額 | 1,081 | 2,224 |

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

| | 前連結会計年度 (2017年12月31日) | 当連結会計年度 (2018年12月31日) |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 法定実効税率 | 30.8% | 30.8% |
| (調整) | | |
| 連結子会社との税率差 | 2.3% | 4.6% |
| 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 | 0.7% | 0.8% |
| 持分法投資損益 | 0.3% | 0.4% |
| 関係会社の留保利益金 | 1.2% | 0.1% |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 0.3% | 0.3% |
| のれん償却 | 0.3% | 0.4% |
| 海外関係会社からの受取配当金消去 | 0.5% | 0.7% |
| 住民税均等割等 | 0.7% | 0.8% |
| 税率変更による期末繰延税金資産及び負債の減額修正 | 24.5% | % |
| 評価性引当額 | 9.0% | 5.1% |
| その他 | 4.7% | 2.1% |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 24.3% | 34.5% |

(企業結合等関係)

事業分離

当社は、当社自動車部品事業セグメントの軟質ウレタン事業（バンパーの販売事業を除く、以下「当該事業」）について、当社が新たに設立した株式会社ティ・ティ・エムに、当社の100%連結子会社である東洋ソフラン株式会社が発行する当該事業を吸収分割の方法により継承させた上で、()株式会社ティ・ティ・エムの発行済株式の65%、()当社100%連結子会社の株式会社エフ・シー・シーの発行済株式の全部、並びに()当該事業に関する当社の販売及び研究開発事業を株式会社東洋クオリティワンに譲渡いたしました。

1 事業分離の概要

(1) 分離先企業の名称

株式会社東洋クオリティワン

(2) 分離した事業の内容

軟質ウレタン事業（バンパーの販売事業を除く）

(3) 事業分離を行った主な理由

当社は、お客様に対する十分な事業要件を満たすことを前提とした「事業評価ガイドライン」を策定し、市場成長性や事業継続性など、さまざまな観点から全事業領域を対象として個別に評価・検証を行うとともに、それぞれの事業価値の向上を目指し、必要な最適方策の検討を実施することとしています。当該事業は、当社連結子会社の株式会社東洋ソフラン及び株式会社エフ・シー・シーを中心に、技術力への評価と安定的な需要に支えられ、これまで長年にわたって、その知名度と堅固な事業基盤を築いてきました。

今回、当該事業の評価・検証及び方策検討にあたっては、当社グループが置かれた昨今の市場競争環境の中で、さらなる事業発展と企業価値向上を実現していく必要性を確認するとともに、その目的に資する方策を継続検討してまいりました。

この結果、類する事業に関連した知見と事業推進基盤を有する既存の有力事業者のもとで、さらなる事業展開を図ることが適切であるとの判断に至りました。

また、当社が本株式・事業譲渡の実行後、継承会社の発行済株式の35%を保有することで、最適な外部パートナーとともに当該事業の継続を目指すこととなりました。

当社は、事業評価に基づく上記方策を実施する一方、タイヤと自動車用防振ゴム事業をコア事業領域として捉え、経営資源を重点投下することにより、事業経営の推進力を強化し、ひいては、さらなる企業価値の向上を実現してまいります。

(4) 事業分離日

2018年12月27日

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

2 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

営業外費用 その他 0百万円

(2) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

| | |
|------|----------|
| 流動資産 | 661百万円 |
| 固定資産 | 652百万円 |
| 資産合計 | 1,314百万円 |
| 流動負債 | 358百万円 |
| 固定負債 | 538百万円 |
| 負債合計 | 896百万円 |

(3) 会計処理

当該譲渡株式の適正な帳簿価額と売却額との差額は、営業外費用「その他」へ計上しております。

3 分離した事業が含まれていた報告セグメント

自動車部品事業

4 当連結会計年度の連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

売上高 5,928百万円

営業利益 165百万円

5 継続的関与の概要

一部連結子会社は、当該事業譲渡に伴い当社が新たに設立した株式会社ティ・ティ・エムに対して、建物及び土地の一部を賃貸しております。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、タイヤ事業及び自動車部品事業の2つの事業本部を基礎として組織が構成されており、各事業本部単位で、国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、「タイヤ事業」及び「自動車部品事業」の2つを報告セグメントとしております。

「タイヤ事業」は、各種タイヤ(乗用車用、トラック・バス用、建設機械用、産業車両用)、その他関連製品を製造及び販売しております。「自動車部品事業」は、自動車部品(自動車用防振ゴム等)を製造及び販売しております。

(注)自動車部品事業における軟質ウレタン事業(バンパーの販売事業を除く)は、2018年12月27日に譲渡しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産及びその他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。報告セグメントの利益は営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上高又は振替高は、主に第三者間取引価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産及びその他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 (注) 3 | 連結財務諸 表計上額 |
|---------------------------------|---------|---------------|---------|--------------|---------|-----------------------|---------------|
| | タイヤ事業 | ダイバー テック事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| (1) 外部顧客に 対する売上高 | 327,092 | 77,837 | 404,929 | 70 | 404,999 | | 404,999 |
| (2) セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 5 | 23 | 28 | 132 | 161 | 161 | |
| 計 | 327,097 | 77,860 | 404,957 | 203 | 405,160 | 161 | 404,999 |
| セグメント利益又は損失() (営業利益又は損失()) | 46,047 | 851 | 45,195 | 151 | 45,347 | 38 | 45,308 |
| セグメント資産 | 342,751 | 42,433 | 385,184 | 30,020 | 415,204 | 58,671 | 473,876 |
| その他の項目 | | | | | | | |
| 減価償却費 | 22,309 | 2,430 | 24,740 | 797 | 25,538 | 0 | 25,538 |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の増加額 | 17,473 | 4,354 | 21,828 | 553 | 22,381 | | 22,381 |

当連結会計年度(自 2018年 1月 1日 至 2018年12月31日)

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 (注) 3 | 連結財務諸 表計上額 |
|---------------------------------|---------|-------------|---------|--------------|---------|-----------------------|---------------|
| | タイヤ事業 | 自動車 部品事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| (1) 外部顧客に 対する売上高 | 341,693 | 51,466 | 393,159 | 60 | 393,220 | | 393,220 |
| (2) セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 0 | | 0 | 72 | 73 | 73 | |
| 計 | 341,694 | 51,466 | 393,160 | 133 | 393,293 | 73 | 393,220 |
| セグメント利益又は損失() (営業利益又は損失()) | 46,879 | 4,537 | 42,342 | 80 | 42,422 | 31 | 42,390 |
| セグメント資産 | 355,122 | 32,697 | 387,820 | 33,353 | 421,173 | 48,208 | 469,381 |
| その他の項目 | | | | | | | |
| 減価償却費 | 22,620 | 1,993 | 24,614 | 1,181 | 25,795 | | 25,795 |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の増加額 | 24,738 | 3,781 | 28,519 | 1,202 | 29,722 | | 29,722 |

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内関係会社に対する融資及び債権の買取、不動産業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失()の調整額は前連結会計年度 38百万円、当連結会計年度 31百万円であり、セグメント間取引消去等が含まれております。

3 セグメント資産のうち調整額に含めた全社資産の金額は前連結会計年度65,186百万円、当連結会計年度56,622百万円であり、その主なものは親会社での余資運用資金(現金及び預金)及び長期投資資金(投資有価証券)等であります。

4 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント名称の変更)

前連結会計年度末において、化工品事業(建築用免震ゴム事業を除く)及び硬質ウレタン事業を譲渡したことに伴い、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を「ダイバーテック事業」から「自動車部品事業」へ変更しております。なお、当該変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2017年 1月 1日 至 2017年12月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

| 日本 | 北米 | | その他 | 合計 |
|---------|---------|--------|--------|---------|
| | 米国 | その他 | | |
| 133,040 | 167,136 | 15,010 | 89,811 | 404,999 |

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

| 日本 | 北米 | | その他 | | 合計 |
|--------|--------|-----|--------|--------|---------|
| | 米国 | その他 | マレーシア | その他 | |
| 73,669 | 78,339 | 68 | 23,933 | 15,986 | 191,997 |

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため記載はありません。

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

| 日本 | 北米 | | その他 | 合計 |
|---------|---------|--------|--------|---------|
| | 米国 | その他 | | |
| 112,000 | 175,627 | 16,456 | 89,138 | 393,220 |

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

| 日本 | 北米 | | その他 | | 合計 |
|--------|--------|-----|--------|--------|---------|
| | 米国 | その他 | マレーシア | その他 | |
| 69,838 | 80,151 | 52 | 25,552 | 14,707 | 190,303 |

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 | 全社・消去 | 合計 |
|------|---------|-----------|-------|-----|-------|-------|
| | タイヤ事業 | ダイバーテック事業 | 計 | | | |
| 減損損失 | 75 | 974 | 1,050 | | | 1,050 |

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 | 全社・消去 | 合計 |
|------|---------|---------|-------|-----|-------|-------|
| | タイヤ事業 | 自動車部品事業 | 計 | | | |
| 減損損失 | | 3,583 | 3,583 | | | 3,583 |

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 | 全社・消去 | 合計 |
|-------|---------|-----------|-------|-----|-------|-------|
| | タイヤ事業 | ダイバーテック事業 | 計 | | | |
| 当期償却額 | 183 | | 183 | | | 183 |
| 当期末残高 | 1,557 | | 1,557 | | | 1,557 |

当連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 | 全社・消去 | 合計 |
|-------|---------|---------|-------|-----|-------|-------|
| | タイヤ事業 | 自動車部品事業 | 計 | | | |
| 当期償却額 | 192 | | 192 | | | 192 |
| 当期末残高 | 1,317 | | 1,317 | | | 1,317 |

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

| 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) | |
|---|-----------|---|-----------|
| 1株当たり純資産額 | 1,252円66銭 | 1株当たり純資産額 | 1,202円75銭 |
| 1株当たり当期純利益金額 | 121円87銭 | 1株当たり当期純利益金額 | 83円11銭 |

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 区分 | 前連結会計年度 (2017年12月31日) | 当連結会計年度 (2018年12月31日) |
|---|--------------------------|--------------------------|
| 純資産の部の合計額 (百万円) | 163,815 | 157,251 |
| 純資産の部の合計額 から控除する金額 (百万円) | 4,735 | 4,511 |
| (うち非支配株主持分) | (4,735) | (4,511) |
| 普通株式に係る期末の純資産額 (百万円) | 159,079 | 152,739 |
| 1株当たり純資産額の算定に 用いられた期末の普通株式の数 (千株) | 126,993 | 126,992 |

3 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 区分 | 前連結会計年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
|-------------------------------------|---|---|
| 親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円) | 15,476 | 10,553 |
| 普通株主に帰属しない金額 (百万円) | | |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円) | 15,476 | 10,553 |
| 期中平均株式数 (千株) | 126,994 | 126,992 |

(重要な後発事象)

第三者割当による新株式の発行に係る払込完了

2018年11月1日開催の取締役会において決議いたしました、三菱商事株式会社を割当先とする第三者割当による新株式の発行（以下「本第三者割当増資」といいます。）に関して、2019年2月12日に払込手続きが完了しております。

1. 本第三者割当増資の概要

| | |
|----------------|------------------|
| (1) 募集株式の種類及び数 | 普通株式 26,931,956株 |
| (2) 発行価額（払込金額） | 1株につき1,890円 |
| (3) 払込金額の総額 | 50,901,396,840円 |
| (4) 資本組入額 | 1株につき945円 |
| (5) 資本組入額の総額 | 25,450,698,420円 |
| (6) 募集方法 | 第三者割当の方法によります。 |
| (7) 割当先 | 三菱商事株式会社 |

2. 本第三者割当増資による発行済株式総数及び資本金の額の推移

| | |
|-------------|---|
| 増資前の発行済株式総数 | 127,179,073株（増資前の資本金の額 30,484,627,991円） |
| 増資による増加株式数 | 26,931,956株（増資する資本金の額 25,450,698,420円） |
| 増資後の発行済株式総数 | 154,111,029株（増資後の資本金の額 55,935,326,411円） |

【連結附属明細表】

【社債明細表】

| 会社名 | 銘柄 | 発行年月日 | 当期首残高 (百万円) | 当期末残高 (百万円) | 利率 (%) | 担保 | 償還期限 |
|-----|-----------|------------|----------------|----------------|-----------|-----|------------|
| | | 年月日 | | | | | 年月日 |
| 当社 | 第24回無担保社債 | 2011.09.12 | 5,000 | | 1.18 | 無担保 | 2018.09.12 |
| | 合計 | | 5,000 | | | | |

【借入金等明細表】

| 区分 | 当期首残高 (百万円) | 当期末残高 (百万円) | 平均利率 (%) | 返済期限 |
|-------------------------|----------------|----------------|-------------|----------------------------|
| 短期借入金 | 22,148 | 16,912 | 0.86 | |
| 1年以内に返済予定の長期借入金 | 14,342 | 18,225 | 3.15 | |
| 1年以内に返済予定のリース債務 | 144 | 161 | | |
| 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。) | 76,130 | 87,459 | 1.89 | 2020年1月31日～ 2023年12月27日 |
| リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。) | 197 | 568 | | 2020年1月31日～ 2026年12月31日 |
| その他有利子負債 コマーシャル・ペーパー | 2,000 | 14,000 | 0.05 | |
| 合計 | 114,963 | 137,327 | | |

(注) 1 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

| | 1年超2年以内 (百万円) | 2年超3年以内 (百万円) | 3年超4年以内 (百万円) | 4年超5年以内 (百万円) |
|-------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 長期借入金 | 31,864 | 11,332 | 8,099 | 16,164 |
| リース債務 | 133 | 107 | 94 | 71 |

- 平均利率については、期末借入残高に対する加重平均利率を記載しております。
- リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
- 長期借入金の当期末残高には、劣後ローン20,000百万円が含まれております。返済期限については、劣後ローンを除く長期借入金について表示しております。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

1 当連結会計年度における四半期情報等

| (累計期間) | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 当連結会計年度 |
|--------------------------------|--------|---------|---------|---------|
| 売上高 (百万円) | 93,741 | 185,738 | 285,048 | 393,220 |
| 税金等調整前四半期(当期)純利益 (百万円) | 7,272 | 8,247 | 16,314 | 17,067 |
| 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円) | 6,730 | 7,068 | 11,264 | 10,553 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 (円) | 53.00 | 55.66 | 88.70 | 83.11 |

| (会計期間) | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 |
|-------------------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失() (円) | 53.00 | 2.66 | 33.04 | 5.59 |

2 重要な訴訟事件等

当社は、2013年11月26日(米国時間)、米国司法省との間で、自動車用防振ゴム及び等速ジョイントブーツの販売に係る米国独占禁止法違反に関して、罰金120百万米ドルを支払うこと等を内容とする司法取引に合意し、2014年2月6日(米国時間)、裁判所より同金額の支払を命ずる判決の言渡しを受け、これを支払いました。

本件に関連して、米国及びカナダにおいて、集団訴訟が当社及び子会社に対して提起されており、その結果は当社の連結業績に影響を及ぼす可能性があります。現段階において、その結果を合理的に予測することは困難であります。

なお、2017年9月14日、一部の原告との間で和解に合意しております。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (2017年12月31日) | 当事業年度 (2018年12月31日) |
|-------------|------------------------|------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 10,576 | 11,111 |
| 受取手形 | 2 1,256 | 2 1,189 |
| 売掛金 | 2 46,015 | 2 46,707 |
| 商品及び製品 | 10,605 | 11,813 |
| 仕掛品 | 1,280 | 1,291 |
| 原材料及び貯蔵品 | 4,118 | 5,081 |
| 前払費用 | 611 | 631 |
| 繰延税金資産 | 8,264 | 5,806 |
| その他 | 2 13,602 | 2 11,607 |
| 貸倒引当金 | 529 | 0 |
| 流動資産合計 | 95,802 | 95,241 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 18,519 | 18,181 |
| 構築物 | 974 | 956 |
| 機械及び装置 | 19,579 | 17,159 |
| 車両運搬具 | 243 | 215 |
| 工具、器具及び備品 | 5,275 | 5,125 |
| 土地 | 13,385 | 13,383 |
| リース資産 | 227 | 559 |
| 建設仮勘定 | 1,964 | 1,812 |
| 有形固定資産合計 | 1 60,169 | 1 57,393 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 2,352 | 2,396 |
| その他 | 64 | 63 |
| 無形固定資産合計 | 2,416 | 2,460 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 54,610 | 45,511 |
| 関係会社株式 | 59,466 | 65,544 |
| 関係会社出資金 | 7,285 | 7,285 |
| 長期貸付金 | 2 4,533 | 2 10,089 |
| 繰延税金資産 | 3,213 | 6,664 |
| その他 | 4,309 | 4,248 |
| 貸倒引当金 | 78 | 3,615 |
| 投資その他の資産合計 | 133,340 | 135,728 |
| 固定資産合計 | 195,927 | 195,582 |
| 資産合計 | 291,730 | 290,823 |

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (2017年12月31日) | | 当事業年度 (2018年12月31日) | |
|-----------------|------------------------|---------|------------------------|---------|
| 負債の部 | | | | |
| 流動負債 | | | | |
| 買掛金 | 2 | 34,501 | 2 | 30,390 |
| コマーシャル・ペーパー | | 2,000 | | 14,000 |
| 短期借入金 | 4 | 17,796 | 4 | 20,575 |
| 1年内償還予定の社債 | | 5,000 | | 0 |
| リース債務 | | 101 | | 130 |
| 未払金 | 2 | 13,364 | 2 | 11,594 |
| 未払費用 | | 3,406 | | 3,499 |
| 未払法人税等 | | 275 | | 246 |
| 前受金 | | 30 | | 36 |
| 預り金 | 2 | 1,818 | 2 | 1,697 |
| 役員賞与引当金 | | 55 | | 81 |
| 製品補償引当金 | | 21,000 | | 15,946 |
| その他 | | 16 | | 14 |
| 流動負債合計 | | 99,367 | | 98,214 |
| 固定負債 | | | | |
| 長期借入金 | 4 | 38,930 | 4 | 61,074 |
| リース債務 | | 124 | | 428 |
| 退職給付引当金 | | 6,078 | | 6,273 |
| 環境対策引当金 | | 299 | | 269 |
| 製品補償引当金 | | 42,100 | | 29,592 |
| その他 | | 91 | | 188 |
| 固定負債合計 | | 87,623 | | 97,825 |
| 負債合計 | | 186,991 | | 196,040 |
| 純資産の部 | | | | |
| 株主資本 | | | | |
| 資本金 | | 30,484 | | 30,484 |
| 資本剰余金 | | | | |
| 資本準備金 | | 7,621 | | 7,621 |
| その他資本剰余金 | | 20,886 | | 20,886 |
| 資本剰余金合計 | | 28,507 | | 28,507 |
| 利益剰余金 | | | | |
| その他利益剰余金 | | | | |
| 固定資産圧縮積立金 | | 1,641 | | 1,531 |
| 繰越利益剰余金 | | 17,473 | | 13,825 |
| 利益剰余金合計 | | 19,115 | | 15,357 |
| 自己株式 | | 149 | | 152 |
| 株主資本合計 | | 77,957 | | 74,197 |
| 評価・換算差額等 | | | | |
| その他有価証券評価差額金 | | 26,792 | | 20,577 |
| 繰延ヘッジ損益 | | 10 | | 9 |
| 評価・換算差額等合計 | | 26,781 | | 20,586 |
| 純資産合計 | | 104,738 | | 94,783 |
| 負債純資産合計 | | 291,730 | | 290,823 |

【損益計算書】

(単位：百万円)

| | 前事業年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | | 当事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) | |
|--------------|---|---------|---|---------|
| 売上高 | 1 | 218,678 | 1 | 225,696 |
| 売上原価 | 1 | 148,515 | 1 | 155,509 |
| 売上総利益 | | 70,163 | | 70,187 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,2 | 41,154 | 1,2 | 43,322 |
| 営業利益 | | 29,008 | | 26,864 |
| 営業外収益 | | | | |
| 受取利息及び受取配当金 | | 5,510 | | 4,264 |
| その他 | | 1,298 | | 920 |
| 営業外収益合計 | 1 | 6,809 | 1 | 5,184 |
| 営業外費用 | | | | |
| 支払利息 | | 526 | | 747 |
| その他 | 1 | 5,630 | 1 | 4,018 |
| 営業外費用合計 | | 6,156 | | 4,765 |
| 経常利益 | | 29,660 | | 27,283 |
| 特別利益 | | | | |
| 固定資産売却益 | 3 | 2,288 | | |
| 投資有価証券売却益 | | 219 | | 378 |
| 事業譲渡益 | 4 | 5,219 | | |
| 特別利益合計 | | 7,728 | | 378 |
| 特別損失 | | | | |
| 固定資産除却損 | | 495 | | 481 |
| 減損損失 | 5 | 559 | 5 | 2,535 |
| 製品補償対策費 | 6 | 4,528 | 6 | 7,279 |
| 製品補償引当金繰入額 | 6 | 13,691 | 6 | 10,239 |
| 関係会社貸倒引当金繰入額 | | 529 | | 3,007 |
| 独禁法関連損失 | 7 | 5,244 | | |
| 特別損失合計 | | 25,048 | | 23,543 |
| 税引前当期純利益 | | 12,340 | | 4,118 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 60 | | 442 |
| 法人税等調整額 | | 2,721 | | 1,719 |
| 法人税等合計 | | 2,660 | | 2,162 |
| 当期純利益 | | 9,680 | | 1,956 |

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

(単位：百万円)

| | 株主資本 | | | | | | | |
|---------------------|--------|--------|--------------|-------------|-------|---------------|-------------|-------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | | 利益準備金 | その他利益剰余金 | | 利益剰余金 合計 |
| | | 資本準備金 | その他資本 剰余金 | 資本剰余金 合計 | | 固定資産 圧縮積立金 | 繰越利益 剰余金 | |
| 当期首残高 | 30,484 | 28,507 | 0 | 28,507 | 2,568 | 1,775 | 10,805 | 15,149 |
| 当期変動額 | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | 5,714 | 5,714 |
| 当期純利益 | | | | | | | 9,680 | 9,680 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | | |
| 固定資産圧縮積立金の取崩 | | | | | | 133 | 133 | |
| 準備金から剰余金への振替 | | 20,885 | 20,885 | | 2,568 | | 2,568 | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | | 20,885 | 20,885 | | 2,568 | 133 | 6,668 | 3,965 |
| 当期末残高 | 30,484 | 7,621 | 20,886 | 28,507 | | 1,641 | 17,473 | 19,115 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | | 純資産合計 |
|---------------------|------|--------|------------------|-------------|----------------|---------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券 評価差額金 | 繰延ヘッジ 損益 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 当期首残高 | 143 | 73,997 | 21,702 | 119 | 21,582 | 95,580 |
| 当期変動額 | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | 5,714 | | | | 5,714 |
| 当期純利益 | | 9,680 | | | | 9,680 |
| 自己株式の取得 | 6 | 6 | | | | 6 |
| 固定資産圧縮積立金の取崩 | | | | | | |
| 準備金から剰余金への振替 | | | | | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | 5,089 | 109 | 5,198 | 5,198 |
| 当期変動額合計 | 6 | 3,959 | 5,089 | 109 | 5,198 | 9,158 |
| 当期末残高 | 149 | 77,957 | 26,792 | 10 | 26,781 | 104,738 |

当事業年度(自 2018年 1月 1日 至 2018年12月31日)

(単位：百万円)

| | 株主資本 | | | | | | |
|---------------------|--------|-------|----------|-----------|----------|--------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | | 利益剰余金 | | |
| | | 資本準備金 | その他資本剰余金 | 資本剰余金合計 | その他利益剰余金 | | 利益剰余金合計 |
| | | | | 固定資産圧縮積立金 | 繰越利益剰余金 | | |
| 当期首残高 | 30,484 | 7,621 | 20,886 | 28,507 | 1,641 | 17,473 | 19,115 |
| 当期変動額 | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | 5,714 | 5,714 |
| 当期純利益 | | | | | | 1,956 | 1,956 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | |
| 自己株式の処分 | | | 0 | 0 | | | |
| 固定資産圧縮積立金の取崩 | | | | | 109 | 109 | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | | | | | 109 | 3,648 | 3,757 |
| 当期末残高 | 30,484 | 7,621 | 20,886 | 28,507 | 1,531 | 13,825 | 15,357 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | | 純資産合計 |
|---------------------|------|--------|--------------|---------|------------|---------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券評価差額金 | 繰延ヘッジ損益 | 評価・換算差額等合計 | |
| 当期首残高 | 149 | 77,957 | 26,792 | 10 | 26,781 | 104,738 |
| 当期変動額 | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | 5,714 | | | | 5,714 |
| 当期純利益 | | 1,956 | | | | 1,956 |
| 自己株式の取得 | 2 | 2 | | | | 2 |
| 自己株式の処分 | 0 | 0 | | | | 0 |
| 固定資産圧縮積立金の取崩 | | | | | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | 6,214 | 20 | 6,194 | 6,194 |
| 当期変動額合計 | 2 | 3,760 | 6,214 | 20 | 6,194 | 9,954 |
| 当期末残高 | 152 | 74,197 | 20,577 | 9 | 20,586 | 94,783 |

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

| | |
|---------|--|
| 時価のあるもの | 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。） |
|---------|--|

| | |
|---------|-------------|
| 時価のないもの | 移動平均法による原価法 |
|---------|-------------|

2 デリバティブの評価基準及び評価方法

デリバティブ 時価法

3 たな卸資産の評価基準及び評価方法

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

4 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

建物並びに工具、器具及び備品 定額法

構築物並びに機械及び装置、車輛運搬具 定率法

ただし、2016年4月1日以降に取得した構築物については、定額法

(2) 無形固定資産(リース資産を除く) 定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法

5 繰延資産の償却の方法

社債発行費 支出時に全額費用処理

6 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権に対する貸倒損失に備えるものであり、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 役員賞与引当金

役員賞与支給に備えるため、当事業年度末における支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間（15年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間（主として15年）による定額法により、翌事業年度から費用処理しております。

(4) 環境対策引当金

PCB（ポリ塩化ビフェニル）廃棄物処理等の環境対策費用の支出に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上しております。

(5) 製品補償引当金

当社の製品に関する改修工事費用等の対策費用に備えるため、今後発生すると見込まれる金額を計上しております。

7 ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。為替予約については振当処理を、金利スワップについては、特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

| (ヘッジ手段) | (ヘッジ対象) |
|----------------|-----------|
| 為替予約・通貨オプション | 外貨建金銭債権債務 |
| 金利スワップ・金利オプション | 借入金及び社債 |

(3) ヘッジ方針

当社の内部規定である「財務リスク管理規定」に基づき為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジしております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象について、相場変動額又はキャッシュ・フロー変動額を、ヘッジ期間全体にわたり比較し、有効性を評価しております。

8 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

9 消費税等の会計処理

税抜方式によっており、控除対象外消費税等は、発生事業年度の費用として処理しております。

(貸借対照表関係)

1 担保提供資産

| | 前事業年度 (2017年12月31日) | 当事業年度 (2018年12月31日) |
|--------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 工場抵当法による担保物件 | | |
| 建物、構築物、機械及び装置、 工具、器具及び備品、土地 | 計16,308百万円 | 計16,235百万円 |
| | 上記担保資産に対応する 債務はありません。 | 上記担保資産に対応する 債務はありません。 |

2 関係会社に対する資産及び債務

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

| | 前事業年度 (2017年12月31日) | 当事業年度 (2018年12月31日) |
|--------|------------------------|------------------------|
| 短期金銭債権 | 33,845百万円 | 35,328百万円 |
| 長期金銭債権 | 4,327百万円 | 9,913百万円 |
| 短期金銭債務 | 4,356百万円 | 6,346百万円 |

3 偶発債務

(1) 保証債務

| | 前事業年度 (2017年12月31日) | 当事業年度 (2018年12月31日) |
|----------------------|------------------------|------------------------|
| 関係会社等の銀行借入金ほかに対する保証額 | 16,239百万円 | 10,971百万円 |

(2) 債権流動化に伴う買戻義務限度額

| | 前事業年度 (2017年12月31日) | 当事業年度 (2018年12月31日) |
|-----------------|------------------------|------------------------|
| 債権流動化に伴う買戻義務限度額 | 9,295百万円 | 9,008百万円 |

(3) 当社は、建築基準法第37条第2号の指定建築材料に係る国土交通大臣認定を受け、当社自身により、又は当社の連結子会社である東洋ゴム化工品株式会社を通じて、建築用免震積層ゴムを製造・販売していましたが、2015年12月期において、出荷していた製品の一部（納入物件数154棟、納入基数2,907基）が国土交通大臣認定の性能評価基準に適合していない等の事実が判明いたしました。

当社は、原則として当該製品について、当初の設計段階において求められた性能評価基準に適合する製品へと交換・改修を進める方針です。

当該事象により、金額を合理的に見積もることができる改修工事費用等については製品補償引当金を計上しております。

なお、改修工事費用について、既に見積書等により金額が判明している物件（130棟、納入基数2,626基）については個別引当を行い、その他の物件については社内の査定結果等に基づいて個別引当を行っております。ただし、物件毎の改修工事については個別性が高いことから、今後の改修工事費用算定の前提条件が変更された場合等、追加で判明する改修工事費用の金額が既引当額を超過する可能性があります。また、営業補償や遅延損害金等の賠償金の中には、現時点では金額を合理的に見積もることが困難なものがあります。

したがって、翌期以降の進行状況等によっては、追加で製品補償引当金を計上すること等により当社の業績に影響が生じる可能性があります。

(4) 当社は、2013年11月26日（米国時間）、米国司法省との間で、自動車用防振ゴム及び等速ジョイントブーツの販売に係る米国独占禁止法違反に関して、罰金120百万米ドルを支払うこと等を内容とする司法取引に合意し、2014年2月6日（米国時間）、裁判所より同金額の支払を命ずる判決の言渡しを受け、これを支払いました。

本件に関連して、米国及びカナダにおいて、集団訴訟が当社及び子会社に対して提起されており、その結果は当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。現段階において、その結果を合理的に予測することは困難であります。

4 財務制限条項

前事業年度（2017年12月31日）

当社が締結しているシンジケート・ローン契約には、各年度の決算期及び第2四半期の末日において、連結貸借対照表の株主資本合計の金額を、前年同期比75%以上、かつ連結貸借対照表で1,014億円以上を維持すること、及び各年度の決算期における経常損益が連結損益計算書において2期連続して損失とならないようにするという財務制限条項が付されております。（契約ごとに条項は異なりますが、主なものを記載しております。）

当事業年度（2018年12月31日）

当社が締結しているシンジケート・ローン契約には、各年度の決算期及び第2四半期の末日において、連結貸借対照表の株主資本合計の金額を、前年同期比75%以上、かつ連結貸借対照表で1,014億円以上を維持すること、及び各年度の決算期における経常損益が連結損益計算書において2期連続して損失とならないようにするという財務制限条項が付されております。（契約ごとに条項は異なりますが、主なものを記載しております。）

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

| | 前事業年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
|------------|---|---|
| 営業取引による取引高 | | |
| 売上高 | 114,864百万円 | 121,287百万円 |
| 仕入高等 | 32,569百万円 | 35,296百万円 |
| 営業取引以外の取引高 | 5,264百万円 | 3,259百万円 |

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 2017年1月1日 至 2017年12月31日) | 当事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日) |
|------------|---|---|
| 運賃及び荷造費 | 14,191百万円 | 14,889百万円 |
| 従業員給料 | 6,049百万円 | 6,243百万円 |
| 減価償却費 | 2,841百万円 | 2,972百万円 |
| 退職給付費用 | 277百万円 | 273百万円 |
| 役員賞与引当金繰入額 | 55百万円 | 81百万円 |
| おおよその割合 | | |
| 販売費 | 50% | 49% |
| 一般管理費 | 50% | 51% |

3 固定資産売却益

前事業年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

| | |
|----|----------|
| 建物 | 728百万円 |
| 土地 | 1,560百万円 |
| 合計 | 2,288百万円 |

4 事業譲渡益

前事業年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

事業譲渡益は、当社ダイバーテック事業セグメントの化工品事業(建築用免震ゴム事業を除く)及び硬質ウレタン事業を譲渡したことに伴うものであり、その内訳は次のとおりであります。

| | |
|---------------------------|----------|
| 関係会社株式売却益及び 関係会社出資金売却益 | 6,396百万円 |
| 固定資産売却損 | 14百万円 |
| 従業員退職関係費用 | 1,162百万円 |
| 合計 | 5,219百万円 |

5 減損損失

前事業年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

当社は、内部管理上採用している事業区分を基礎として事業用資産をグルーピングしており、賃貸資産、売却等処分の意思決定がされた資産及び将来の使用が見込まれていない遊休資産は、個々の物件単位でグルーピングを行っております。

| 場所 | 用途 | 種類 | 金額(百万円) |
|--------|--------|-------|---------|
| 兵庫県加古郡 | 売却予定資産 | 土地・建物 | 559 |
| 合計 | | | 559 |

売却予定資産については、帳簿価額に対して市場価格が下落しており、今後の使用可能見込みが売却予定となっているため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。その内訳は、土地367百万円、建物192百万円であります。なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、契約に基づく売却予定価額により算定しております。

当事業年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

当社は、内部管理上採用している事業区分を基礎として事業用資産をグルーピングしており、賃貸資産、売却等処分の意思決定がされた資産及び将来の使用が見込まれていない遊休資産は、個々の物件単位でグルーピングを行っております。

| 場所 | 用途 | 種類 | 金額(百万円) |
|---------|-----------|-------------------|---------|
| 三重県員弁郡他 | 自動車部品製造設備 | 機械及び装置・工具、器具及び備品他 | 2,535 |
| 合計 | | | 2,535 |

三重県員弁郡他における自動車部品製造設備については、自動車部品の製造及び販売を行っている当社において、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスであり、減損の兆候が認められたため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。その内訳は、機械及び装置1,866百万円、車輛運搬具3百万円、工具、器具及び備品378百万円、建設仮勘定229百万円、ソフトウェア56百万円等であります。なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地、建物については不動産鑑定評価等を基準とした価格、機械及び装置、工具、器具及び備品他については備忘価額により評価しております。

6 製品補償対策費及び製品補償引当金繰入額

当社は、建築基準法第37条第2号の指定建築材料に係る国土交通大臣認定を受け、当社自身により、又は当社の連結子会社である東洋ゴム化工品株式会社を通じて、建築用免震積層ゴムを製造・販売しておりましたが、2015年12月期において、出荷していた製品の一部が国土交通大臣認定の性能評価基準に適合していないとの事実及び建築用免震積層ゴムの国土交通大臣認定取得に際し、その一部に技術的根拠のない申請があった事実が判明しました。

当事業年度に発生した当該事象に係る改修工事費用等の対策費用を製品補償対策費として、翌年度以降の改修工事費用等の対策費用の見積額を製品補償引当金繰入額として特別損失に計上しております。

7 独禁法関連損失

前事業年度(自 2017年1月1日 至 2017年12月31日)

当社は、2013年11月26日(米国時間)、米国司法省との間で、自動車用防振ゴム及び等速ジョイントブーツの販売に係る米国独占禁止法違反に関して、司法取引に合意しております。本件に関連して、当社及び当社の米国の一部子会社は、米国ミシガン州東部地区連邦地方裁判所において、損害賠償等を求める集団民事訴訟を提起されておりましたが、原告の一部である自動車ディーラー及び最終購入者と協議を進めた結果、和解合意に至りました。当該和解金額を独禁法関連損失として特別損失に計上しております。

(有価証券関係)

前事業年度(2017年12月31日)

子会社株式及び関連会社株式

| 区分 | 貸借対照表計上額(百万円) |
|--------|---------------|
| 子会社株式 | 59,104 |
| 関連会社株式 | 362 |

当事業年度(2018年12月31日)

子会社株式及び関連会社株式

| 区分 | 貸借対照表計上額(百万円) |
|--------|---------------|
| 子会社株式 | 65,060 |
| 関連会社株式 | 483 |

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められます。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(1) 流動の部

| | 前事業年度 (2017年12月31日) (百万円) | 当事業年度 (2018年12月31日) (百万円) |
|-----------|---------------------------------|---------------------------------|
| 繰延税金資産 | | |
| 未払賞与 | 458 | 489 |
| 販売奨励金 | 178 | 139 |
| たな卸資産 | 181 | 209 |
| 未払事業税 | 78 | 65 |
| 製品補償引当金 | 6,470 | 4,876 |
| 繰越欠損金 | 648 | |
| その他 | 248 | 25 |
| 繰延税金資産合計 | 8,264 | 5,806 |
| 繰延税金資産の純額 | 8,264 | 5,806 |

(2) 固定の部

| | 前事業年度 (2017年12月31日) (百万円) | 当事業年度 (2018年12月31日) (百万円) |
|---------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 繰延税金資産 | | |
| 退職給付引当金 | 1,455 | 1,443 |
| 退職給付株式信託損 | 1,415 | 1,529 |
| 関係会社株式等評価損 | 3,158 | 3,158 |
| 関係会社貸倒引当金 | 188 | 1,105 |
| 製品補償引当金 | 12,874 | 9,049 |
| 繰越欠損金 | 554 | 4,146 |
| その他 | 1,322 | 3,010 |
| 繰延税金資産小計 | 20,968 | 23,442 |
| 評価性引当額 | 5,240 | 7,035 |
| 繰延税金資産合計 | 15,727 | 16,407 |
| 繰延税金負債 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 11,771 | 9,050 |
| その他 | 742 | 692 |
| 繰延税金負債合計 | 12,514 | 9,743 |
| 繰延税金資産(負債)の純額 | 3,213 | 6,664 |

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

| | 前事業年度 (2017年12月31日) | 当事業年度 (2018年12月31日) |
|----------------------|------------------------|------------------------|
| 法定実効税率 (調整) | 30.8% | 30.8% |
| 受取配当金等永久に益金に算入されない項目 | 10.1% | 18.8% |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 0.1% | 0.3% |
| 住民税均等割等 | 0.3% | 0.8% |
| 評価性引当額 | 1.2% | 43.6% |
| その他 | 0.7% | 4.2% |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 21.6% | 52.5% |

(企業結合等関係)

事業分離

連結財務諸表の「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

第三者割当による新株式の発行に係る払込完了

2018年11月1日開催の取締役会において決議いたしました、三菱商事株式会社を割当先とする第三者割当による新株式の発行に関して、2019年2月12日に払込手続きが完了しております。

なお、詳細につきましては、連結財務諸表の「注記事項 (重要な後発事象)」に記載しております。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

| 区分 | 資産の種類 | 期首 帳簿価額 (百万円) | 当期増加額 (百万円) | 当期減少額 (百万円) | 当期償却額 (百万円) | 期末 帳簿価額 (百万円) | 減価償却 累計額 (百万円) | 期末 取得原価 (百万円) |
|----------------|-----------|---------------------|----------------|------------------|----------------|---------------------|----------------------|---------------------|
| 有形 固定 資産 | 建物 | 18,519 | 1,029 | 217 | 1,150 | 18,181 | 23,815 | 41,996 |
| | 構築物 | 974 | 119 | 25 | 110 | 956 | 4,789 | 5,746 |
| | 機械及び装置 | 19,579 | 4,996 | 2,139 (1,866) | 5,277 | 17,159 | 143,091 | 160,250 |
| | 車両運搬具 | 243 | 92 | 3 (3) | 116 | 215 | 1,828 | 2,044 |
| | 工具、器具及び備品 | 5,275 | 4,172 | 418 (378) | 3,903 | 5,125 | 52,661 | 57,787 |
| | 土地 | 13,385 | | 2 | | 13,383 | | 13,383 |
| | リース資産 | 227 | 475 | 0 | 142 | 559 | 323 | 882 |
| | 建設仮勘定 | 1,964 | 10,405 | 10,556 (229) | | 1,812 | | 1,812 |
| | 計 | 60,169 | 21,291 | 13,365 | 10,702 | 57,393 | 226,510 | 283,904 |
| 無形 固定 資産 | ソフトウェア | 2,352 | 980 | 69 (56) | 867 | 2,396 | 2,672 | 5,068 |
| | その他 | 64 | 0 | 0 (0) | 1 | 63 | 6 | 70 |
| | 計 | 2,416 | 981 | 69 | 868 | 2,460 | 2,678 | 5,138 |

(注) 1 「当期減少額」欄の()内は内書で減損損失の計上額であります。

2 固定資産の主な増減は、以下のとおりであります。

| | | |
|-------------|-----------|----------|
| 仙台工場タイヤ製造設備 | 機械及び装置 | 1,384百万円 |
| | 工具、器具及び備品 | 1,964百万円 |
| 桑名工場タイヤ製造設備 | 機械及び装置 | 1,956百万円 |
| | 工具、器具及び備品 | 955百万円 |

【引当金明細表】

| 区分 | 当期首残高 (百万円) | 当期増加額 (百万円) | 当期減少額 (百万円) | 当期末残高 (百万円) |
|---------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 貸倒引当金 | 607 | 3,007 | | 3,615 |
| 役員賞与引当金 | 55 | 81 | 55 | 81 |
| 環境対策引当金 | 299 | | 29 | 269 |
| 製品補償引当金 | 63,100 | 10,239 | 27,800 | 45,539 |

(注) 引当金の計上の理由及び算定方法

「重要な会計方針 6 引当金の計上基準」の理由及び算定方法を参照下さい。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

重要な訴訟事件等

当社は、2013年11月26日（米国時間）、米国司法省との間で、自動車用防振ゴム及び等速ジョイントブーツの販売に係る米国独占禁止法違反に関して、罰金120百万米ドルを支払うこと等を内容とする司法取引に合意し、2014年2月6日（米国時間）、裁判所より同金額の支払を命ずる判決の言渡しを受け、これを支払いました。

本件に関連して、米国及びカナダにおいて、集団訴訟が当社及び子会社に対して提起されており、その結果は当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。現段階において、その結果を合理的に予測することは困難であります。

なお、2017年9月14日、一部の原告との間で和解に合意しております。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

| | |
|--------------|---|
| 事業年度 | 1月1日から12月31日まで |
| 定時株主総会 | 3月中 |
| 基準日 | 12月31日 |
| 剰余金の配当の基準日 | 6月30日 12月31日 |
| 1単元の株式数 | 100株 |
| 単元未満株式の買取・買増 | |
| 取扱場所 | (特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社大阪証券代行部 |
| 株主名簿管理人 | (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 取次所 | |
| 買取・買増手数料 | 無料 |
| 公告掲載方法 | 当社の公告方法は、電子公告としております。但し、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行うこととしております。 なお、公告を掲載するホームページアドレスは次のとおりであります。 https://www.toyotires.co.jp/ir/information/koukoku/ |
| 株主に対する特典 | 該当事項はありません。 |

(注) 1 単元未満株主の権利

当社は、単元未満株主の権利を次のとおりとしております。

当社の株主（実質株主含む。）は、その有する単元未満株式について、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利及び当社定款第11条に定める請求（単元未満株式の買増請求）をする権利以外の権利を行使することができないとしております。

2 基準日後に株式を取得した者の議決権行使

当社は、2019年2月15日開催の取締役会において、2019年3月28日開催の定時株主総会開催時点での株主の意思を正確に株主総会に反映させるため、会社法第124条第4項に基づき、当該株主総会に係る基準日（2018年12月31日）後に第三者割当により新株式26,931,956株を取得した三菱商事株式会社に対し、当該株主総会における議決権269,320個を付与することを決定いたしました。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | | | |
|-----|-------------------------------------|---|------------------------------|---|
| (1) | 有価証券報告書 及びその添付書類、 有価証券報告書の確認書 | 事業年度 (第102期) | 自 2017年1月1日 至 2017年12月31日 | 2018年3月29日 関東財務局長に提出。 |
| (2) | 有価証券届出書 (第三者割当増資) 及びその添付書類 | | | 2018年11月1日 関東財務局長に提出。 |
| (3) | 内部統制報告書 | 事業年度 (第102期) | 自 2017年1月1日 至 2017年12月31日 | 2018年3月29日 関東財務局長に提出。 |
| (4) | 四半期報告書、 四半期報告書の確認書 | (第103期第1四半期) | 自 2018年1月1日 至 2018年3月31日 | 2018年5月11日 関東財務局長に提出。 |
| | | (第103期第2四半期) | 自 2018年4月1日 至 2018年6月30日 | 2018年8月10日 関東財務局長に提出。 |
| | | (第103期第3四半期) | 自 2018年7月1日 至 2018年9月30日 | 2018年11月9日 関東財務局長に提出。 |
| (5) | 臨時報告書 | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書であります。 | | 2018年4月2日 関東財務局長に提出。 |
| | | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号及び第19号(当社及び当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象)の規定に基づく臨時報告書であります。 | | 2018年8月10日 関東財務局長に提出。 |
| | | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号(当社の主要株主の異動)の規定に基づく臨時報告書であります。 | | 2019年2月12日 関東財務局長に提出。 |
| | | 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号及び第19号(当社及び当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象)の規定に基づく臨時報告書であります。 | | 2019年2月15日 関東財務局長に提出。 |
| (6) | 訂正発行登録書(社債) | | | 2018年4月2日 2018年8月10日 2019年2月15日 関東財務局長に提出。 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

TOYO TIRE株式会社
取締役会 御中

2019年3月28日

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田 中 基 博

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉 形 圭 右

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているTOYO TIRE株式会社（旧社名 東洋ゴム工業株式会社）の2018年1月1日から2018年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、TOYO TIRE株式会社（旧社名 東洋ゴム工業株式会社）及び連結子会社の2018年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

1. 注記事項（連結貸借対照表関係）3 偶発債務(1)に記載されているとおり、会社及び会社の連結子会社が製造・販売していた建築用免震積層ゴムが性能評価基準に適合していない等の事実が判明した。当該事象により、金額を合理的に見積もることができる改修工事費用等については製品補償引当金を計上しているが、今後の進行状況等によっては、追加で製品補償引当金を計上すること等により、会社の連結業績に影響が生じる可能性がある。
2. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は2018年11月1日開催の取締役会において決議した、三菱商事株式会社を割当先とする第三者割当による新株式の発行に関して、2019年2月12日に払込手続きが完了した。
当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、TOYO TIRE株式会社（旧社名 東洋ゴム工業株式会社）の2018年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、TOYO TIRE株式会社（旧社名 東洋ゴム工業株式会社）が2018年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は、監査報告書及び内部統制監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が連結財務諸表及び内部統制報告書に添付する形で別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

TOYO TIRE株式会社

取締役会 御中

2019年3月28日

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 田 中 基 博指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 吉 形 圭 右

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているTOYO TIRE株式会社（旧社名 東洋ゴム工業株式会社）の2018年1月1日から2018年12月31日までの第103期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、TOYO TIRE株式会社（旧社名 東洋ゴム工業株式会社）の2018年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

1. 注記事項（貸借対照表関係）3 偶発債務(3)に記載されているとおり、会社及び会社の連結子会社が製造・販売していた建築用免震積層ゴムが性能評価基準に適合していない等の事実が判明した。当該事実により、金額を合理的に見積もることができる改修工事費用等については製品補償引当金を計上しているが、今後の進行状況等によっては、追加で製品補償引当金を計上すること等により、会社の業績に影響が生じる可能性がある。
 2. 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は2018年11月1日開催の取締役会において決議した、三菱商事株式会社を割当先とする第三者割当による新株式の発行に関して、2019年2月12日に払込手続きが完了した。
- 当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。